

C 2
3
0 2

田中 信顯 編纂

本朝民鑑叢書

第四篇
第五篇
合

千鍾房藏版

千鍾房藏版

本朝民鑑第二版

第四編 合卷目次

第一章 學制

第一條

(北條縣)

小學訓導身分取扱之儀伺

第二條

(濱松縣)

女工場設置之儀伺

第三條

(山梨縣)

學校敷地御下渡之儀 = 付伺

第四條

(千葉縣)

安西竹治支那學修行之爲清國へ罷越度出願之儀 = 付伺

本朝民鑑第二版四五編卷索引學制ノ部

第五條

(筑摩縣)

優等之生徒へ賞與方之儀ニ付具上

第六條

(小澤縣)

職分表記職方之儀ニ付伺

第七條

(鳥取縣)

小學校敷地之儀ニ付伺

第八條

(高知縣)

學校建設ノ之儀ニ付伺

第九條

(佐賀縣)

小學校敷地下渡方之儀并下渡地之木竹處分之儀伺

第十條

(愛媛縣)

學校設立場所等之儀ニ付伺

第十一條

(小田縣)

資學社ヨリ出願之儀ニ付伺

第十二條

(濱田縣)

神社境内へ小學校設立願出之儀ニ付伺

第十三條

(青森縣)

中小學校敷地下渡之儀ニ付伺

第十四條

(敦賀縣)

學校敷地下渡之儀ニ付伺

第十五條

(山梨縣)

學校敷地種類之儀ニ付伺

第十六條

本朝民鑑第二版四五編卷索引學制ノ部

(東京府)

第十七條

火除地中～小學校建設之儀＝付伺

(新潟縣)

第十八條

小學敷地民有地ト交換之儀＝付伺

(東京府)

第十九條

誠治學校設立ノ儀願出＝付許否伺

(岐阜縣)

第二十條

學校敷地下渡並民有地ト交換之儀伺

(愛知縣)

第二十一條

小學敷地返上官有地＝据置之儀伺

(石川縣)

第二十二條

學校敷地官有地第四種～組入之儀＝付伺

四

(新潟縣)

第二十三條

學校敷地定限之儀＝付伺

(高知縣)

第二十四條

公園地内～學校新設之儀＝付伺

(長野縣)

第二十五條

學校保護方法＝付布達案添伺

(新潟縣)

學校資本金賦課之儀伺

第二章

第二十六條

官立師範學校生徒入學規則

(滋賀縣)

師範學校敷地之儀＝付伺

本朝民鑑第二版四五編卷索引官立師範學校生徒入學規則ノ部

五

第三章 牧羊場生徒入場規則

第二十七條 (長崎縣) 牧牛取開 = 付爲教授生徒一名拜借之儀伺

第二十八條 (敦賀縣) 牧羊生徒徵集之儀 = 付疑義伺

第二十九條 (滋賀縣) 牧羊生徒定員外志願之者申立之儀 = 付伺

第三十條 (宮城縣) 牧場取開之者官林御拂下願出之儀 = 付伺

第四章 醫術開業試驗手續
第三十一條

(白川縣) 醫術試驗之儀江村萬春外八名願出之儀 = 付伺

第三十二條 (鳥取縣) 醫業證書渡方之儀 = 付伺

第三十三條 (宮城縣) 醫術試驗方御達 = 付疑義ノ件伺

第三十四條 (敦賀縣) 醫術試驗方定方之儀 = 付伺

第三十五條 (山口縣) 從來縣廳 = 於テ廢業申付置候醫者再試驗之儀 = 付伺

第三十六條
本朝民鑑第二版四五編卷索引牧羊場生徒入場規則ノ部
本朝民鑑第二版四五編卷索引醫術開業試驗手續ノ部

(佐賀縣)

醫術開業ヲ請フ者ハ癩疾未成丁ヲ問ハス
試験ノ上差免可然哉之儀伺

第三十七條

(名東縣)

第三十八條

醫術試験之儀御達ニ付施行方之儀ニ付伺

(京都府)

他管ニ於テ免許ヲ得タル者醫術開業之儀
ニ付伺

第三十九條

(飾磨縣)

第四十條

醫師履歴調之儀ニ付伺

(千葉縣)

醫學教場并講習所等ノ經費賦課之儀ニ付
伺

第四十一條

(愛媛縣)

女子ニテ従前ヨリ醫術開業ノ者試験之儀
ニ付伺

第四十二條

(山形縣)

從來醫術開業ノ者ト雖モ一時休業セル者
ハ再試験及フヘキヤ否伺

第四十三條

(三浦縣)

醫術ヲ以テ奉務スル者免許狀渡方之儀ニ
付伺

第四十四條

(堺縣)

他管ニ出張所ヲ設ケ施療スル者試験之儀
ニ付伺

第四十五條

(鳥取縣) 賣藥舖試驗科目之儀 = 付伺

第四十六條

(山口縣) 島田圭三 福田正二 建白ノ儀 = 付伺

第四十七條

(神奈川縣) 醫術ヲ以奉職之者試驗ノ儀 = 付伺

第四十八條

(神奈川縣) 醫術講習所設立 = 付 醫師鑑札料取立之儀
伺

第四十九條

(愛知縣) 他管ヨリ移住之醫師試驗之儀 = 付伺

第五十條

(京都府)

不正ノ醫師處分之儀 = 付伺

第五十一條

(新潟縣) 奉職ノ醫師試驗之儀 = 付伺

第五十二條

(東京府) 同上 = 付伺

第五十三條

(三重縣) 針術之者鑑札下渡之儀伺

第五十四條

(大坂府) 河野藏六外五名再試驗ノ儀 = 付伺

第五十五條

(千葉縣) 藥湯營業之者取調之儀 = 付伺

第五十六條

本朝民鑑第二版四五編卷索引醫術開業試驗手續ノ部

(福島縣) 藥舖開業之者履歷書取調之儀ニ付伺
第五十七條

(千葉縣) 醫業ノ者ニ非スシテ種痘術ヲ施サント願
出ル者許可之儀ニ付伺
第五十八條

(京都府) 藥品取締罰則中藥名之儀ニ付伺
第五十九條

(東京府) 竹井茂信脚氣治療之儀出願ノ儀ニ付伺
第六十條

第五章 私立病院設立心得

(滋賀縣) 醫學會社取開之儀出願ニ付伺

第六十一條

(東京府) 施業病舎設立ノ儀出願ニ付伺
第六十二條

(山形縣) 私立病院公立病院ト改稱之儀ニ付伺

第六章 種痘醫規則

第六十三條 (滋賀縣) 種痘表進達之儀ニ付伺

第六十四條 (愛知縣) 種痘免許之儀從來醫業免許之者ニ無之テ
モ差免不苦ヤ否伺

第六十五條

本朝民鑑第二版四五編卷索引 私立病院設立心得ノ部
本朝民鑑第二版四五編卷索引 種痘醫規則ノ部

(大坂府)

種痘取扱之儀ニ付伺

第七章

天然痘豫防規則

第六十六條

(新潟縣)

種痘規則頒行前種痘シ又ハ天然痘ニ感セ
シモノ送籍狀中ニ記入シ可然哉否伺

第六十七條

(島根縣)

役囚ニ種痘ノ爲メ休役ノ日數ハ役限内ニ
算入スヘキヤ否之儀伺

第八章

博物館物品拜借并出品順序

第六十八條

(奈良縣)

博物館設置ノ儀ニ付伺

第六十九條

(京都府)

博覽會賞牌ノ儀ニ付伺

第七十條

(名東縣)

澳國博覽會賞牌佩用之儀ニ付伺

第九章

米商會社規則

第七十一條

(新治裁判所)

楢山全助出訴ノ儀ニ付伺

第七十二條

(愛知縣)

米商會所條例中疑義伺

本朝民鑑第二版四五編卷索引天然痘豫防規則ノ部
本朝民鑑第二版四五編卷索引博物館物品拜借並出品順序ノ部
本朝民鑑第二版四五編卷索引米商會社規則ノ部

第七十三條

(東京府)

米商會所總計表之儀ハ會計年度ヲ以テ編製不苦哉之儀伺

第七十四條

(岡山縣)

大橋正香ヨリ出願之儀ニ付伺

第七十五條

(愛知縣)

米商會所創立假免狀縣廳ニ請願之儀ニ付伺

第十章

官林並官林監守人規則

第七十六條

(山口縣)

官林取締方法縣限施設御委任之儀伺

第七十七條

(長野縣)

官林監守者給料之儀伺

第七十八條

(福島縣)

安積郡開拓所住民ニ官林無代價付與之儀伺

第七十九條

(福島縣)

官林ノ材木拂下之儀ニ付伺

第八十條

(和歌山縣)

官林監守人設置之儀ニ付伺

第八十一條

(白川縣)

熊本鎮臺營建築ニ付官林伐木之儀伺

第八十二條

(筑摩縣)

官林誤毀ノ者處罰方伺

本朝民鑑第二版四五編卷索引官林並官林監守人規則ノ部

第八十三條

(愛知縣)

字井林民有復舊之儀ニ付伺

一八

第八十四條

(東京上等
裁判所)

官林拂下裁判之儀ニ付伺

第八十五條

(濱田縣)

一等官林ノ内ニテ推葺作立ノ儀伺

第八十六條

(山口縣)

官林ノ樹木隣人ノ土地内ニ侵出セシハ伐
採等ノ儀伺

第八十七條

(熊谷縣)

官林立枯損木等拂下望人無之節無代價取
除方之儀伺

第八十八條

(静岡縣)

村費ヲ以テ松木栽培之儀伺

第八十九條

(長崎縣)

官林燒失ニ付消防入費支給之儀ニ付伺

第九十條

(島根縣)

官林下草等芟取ノ者鑑札渡方之儀ニ付伺

第十一章

諸拂下規則

第九十一條

(熊谷縣)

家祿奉還之者地所拂下願之儀ニ付取扱方
伺

第九十二條

本朝民鑑第二版四五編卷索引諸拂下規則ノ部

一九

(京都府) 還祿ノ者ハ池地沼地等拂下之節缺下年期之儀伺

第九十三條

(鶴岡縣) 永島與一郎逃亡跡邸地等入札拂下之儀ニ付伺

第九十四條

(愛知縣) 三河國幡豆郡小栗新田地先海岸寄州拂下願出ニ付無代價下與之儀伺

第九十五條

(愛媛縣) 田畑荒蕪地取調之儀伺

第九十六條

(若松縣) 紙屑渡世ノ者火藥見出訴出候ニ付其品取

上免許商人ハ拂下可然ヤ否伺

第九十七條

(愛知縣) 一里塚廢毀跡地拂下之儀ニ付伺

第九十八條

(飾磨縣) 官林樹木枝葉透伐之儀並右枝葉拂下之儀伺

第九十九條

(長崎縣) 小學校新設之節官林樹木低價拂下之儀ニ付伺

第一百條

(廣島縣) 人民ヨリ取上ケノ大小砲銃彈拂下之儀伺

第一百一條

本朝民鑑第二版四五編卷索引諸拂下規則ノ部

(山口縣) 損木拂下代金ヲ以並木保存費ニ充ル儀ニ付伺

第二百二條

(濱松縣) 道代地拂下之儀ニ付伺

第二百三條

(和歌山縣) 官林拂下等入札之儀區戶長等ハ投票爲致不苦ヤ否之儀伺

第二百四條

(和歌山縣) 官林拂下之儀ニ付伺

第二百五條

(滋賀縣) 地所拂下之儀ニ付伺

第二百六條

(東京府) 上野不忍池生産蓮根拂下右金遣拂之儀ニ付伺

第二百七條

(三浦縣) 一等官林中炭燒跡地拜借之儀伺

第二百八條

(小倉縣) 寺院跡居屋敷低價拂下御布告之儀ニ付伺

第二百九條

(神奈川縣) 拂下代金滞納之者處分之儀伺

第三百十條

(鳥取縣) 拂下箇所等取調之諸費御下渡之儀伺

第三百十一條

(熊谷縣) 拂下地收益之儀ニ付伺

本朝民鑑第二版四五編索引諸拂下規則ノ部

第一百十二條

(豐岡縣)

家祿奉還之士族へ諸拂下代金差引過金下
渡ノ儀ニ付伺

第一百十三條

(小田縣)

還祿士族地所拂下之儀ニ付伺

第一百十四條

(宮城縣)

內務省乙第八十三號達之儀ニ付伺

第一百十五條

(山形縣)

除族之者地所拂下願出ノ節處分方伺

第一百十六條

(長野縣)

他管下之士族代理ヲ以拂下願出之儀ニ付
伺

第一百十七條

(兵庫縣)

望入無之官用地進退之儀ニ付伺

第一百十八條

(静岡縣)

還祿士族拂下地之儀ニ付伺

第一百十九條

(三重縣)

終身祿奉還願中死亡スルニ相續人へ資金
下渡可然ヤ又右相續人ニ於テ地所拂下願
出之節ハ半價拂下可然ヤ之儀伺

第一百二十條

(静岡縣)

半價拂下期限後出願者有之節必得方伺

第一百廿一條

(名東縣)

湖海沼地之類拂下之儀ニ付伺

第百廿二條

(滋賀縣)

還祿士族へ拂下ノ地ヲ他人へ賣渡タル節
開墾歛下年季之儀伺

第百廿三條

(東京府)

士族へ御拂下ノ地ヨリ砂利堀取之儀ニ付伺

第百廿四條

(磐前縣)

逃亡退轉跡入札拂之儀ニ付伺

第百廿五條

(宮城縣)

社寺院内立木拂下ノ儀ニ付伺

第百廿六條

(濱松縣)

開墾地拂下之儀ニ付伺

第百廿七條

(熊谷縣)

拂下地開墾歛下年季ノ儀ニ付伺

第百廿八條

(若松縣)

永本文一郎沒收之金還附之儀ニ付伺

第百廿九條

(福島縣)

拂下地處分之儀ニ付伺

第百三十條

(宮城縣)

御拂下願中失踪ノ者處分之儀伺

第百卅一條

(滋賀縣)

郷倉跡拂下之儀ニ付伺

第百卅二條

(茨城縣)

高札場建物拂下之儀ニ付伺

第百卅三條

本朝民鑑第二版四五編卷索引諸拂下規則ノ部

(大坂府) 舊行刑場并廢寺跡地拂下之儀伺
第百卅四條

(濱田縣) 還祿ノ者官林拂受之儀ニ付伺
第百卅五條

(愛知縣) 寺院跡地開墾願出之儀ニ付伺
第百卅六條

(京都府) 數地拂下之儀ニ付伺
第百卅七條

(靜岡縣) 還祿後奉職之者拂下之儀伺
第百卅八條

(筑摩縣) 寺院跡地無代價拂下之儀伺
第百卅九條

(神奈川縣) 地所拂下之儀ニ付伺
第百四十條

(三重縣) 拂下代價延納之儀ニ付伺
第百四十一條

(新潟縣) 地所拂受ノ者天災等ニテ納金日延願出ル
節處分之儀伺
第百四十二條

(愛媛縣) 舊藩縣ヨリ開墾願濟之地所開墾着手未着
手區別之儀伺
第百四十三條

(千葉縣) 入會地區域之儀ニ付伺
第百四十四條

(愛知縣) 還祿士族へ御拂下ノ地所便宜ニヨリ拂下取消願出ノ儀ニ付伺

第四百四十五條

(和歌山縣) 還祿士族へ拂下ノ開墾地ヲ宅地ニ變換スル者鐵下年季ノ儀ニ付伺

第四百四十六條

(三重縣) 開墾年季明殘地アル者繼年季之儀ニ付伺

第四百四十七條

(茨城縣) 拂下規則第十條ノ儀伺

第十二章 徵兵令

第四百四十八條

(水澤縣)

陸軍徵兵割符ヲ誤毀スル者適律ノ儀伺

第四百四十九條

(敦賀縣)

徵兵入別表ヲ誤記スルモノ適律ノ儀伺

第四百五十條

(山梨縣)

徵兵入營ノ節差添兵長旅費ノ儀伺

第四百五十一條

(山梨縣)

同上再伺

第四百五十二條

(足柄縣)

徵兵檢査派出醫員診察料ノ儀伺

第四百五十三條

(高知縣)

地方巡査奉職ノ者徵兵免役云々ニ付伺

第四百五十四條

本朝民鑑第二版四五編卷索引徵兵令ノ部

(青森縣)

警視廳巡查奉職ノモノ徴兵年齡ニ至ル節

ハ縣地ニ呼戻調査スヘキヤノ儀伺

第五十五條

(静岡縣)

同上

第五十六條

(石川縣)

徴兵年齡計算方ノ儀伺

第十三章

官金取扱心得

第五十七條

(新潟縣)

上納金護送方伺

第十四章

神社改正規則

第五十八條

(和歌山縣)

寺院住職什物ヲ擅賣スル者處分ノ儀ニ付伺

第五十九條

(小田縣)

神武天皇其外遙拜式ノ節神官雇入ノ儀上申

第六十條

(敦賀縣)

若狹彦姬兩社修繕ノ儀ニ付伺

第六十一條

(熊谷縣)

飯塚徴ヨリ社頭營繕等伺出ノ儀ニ付伺

第六十二條

(香川縣)

神佛混淆ノ神社處分ノ儀ニ付伺

第六十三條

(熊谷縣)

民有地ニアル神社境内伐木ノ儀ニ付伺

本朝民鑑第二版四五編卷索引官金取扱心得ノ部
本朝民鑑第二版四五編卷索引神社改正規則ノ部

第六百六十四條

(千葉縣)

官國幣社所用ノ書籍等買上ノ儀ハ定額金ヨリ遣拂可然哉ノ儀ニ付伺

第六百六十五條

(愛媛縣)

轉社敷地ノ儀ニ付伺

第六百六十六條

(新川縣)

社寺境内樹木風水火等ニテ根返リ枯損等有之節ハ一時縣廳限聞届退テ御届及ヒ可然哉ノ儀ニ付伺

第六百六十七條

(筑摩縣)

社寺境内續ノ地所該神社へ組入ノ儀ニ付伺

第六百六十八條

(滋賀縣)

村社加列取調ノ儀ニ付伺

第六百六十九條

(椽木縣)

神社社格取調ノ儀ニ付伺

第六百七十條

(福島縣)

神武天皇遙拜所設立ノ儀願出ノ儀ニ付伺

第六百七十一條

(岡山縣)

天神宮大麻配賦ノ儀人民ノ望ニ任セ不苦哉否ノ儀ニ付伺

第六百七十二條

(堺縣)

丹生川上神社樂入ノ儀ニ付伺

第六百七十三條

(廣島縣)

氏神改正ノ儀ニ付伺

第七十四條

(京都府) 舊山家藩士族中ヨリ祖先ノ靈社ヲ村社ニ致度旨願出ノ儀ニ付伺

第七十五條

(東京府) 府社制札ノ儀ニ付伺

第七十六條

(滋賀縣) 九年教部省第三十八號達中疑義ニ付伺

第七十七條

(島根縣) 縣鄉村社取調ノ儀ニ付伺

第七十八條

(岡山縣) 九年教部省第三十七八兩號達ノ儀ニ付伺

第七十九條

(和歌山縣) 各村神社祭日ノ儀ニ付伺

第八十條

(群馬縣) 大區域ハ小區限リ郷社ノ儀區畫改正後モモ舊ノ儘据置可然哉ノ儀ニ付伺

第八十一條

(同 縣) 官社以下神社及詞官掌員數表中ニ廢社數ノ一棹加設ノ儀ニ付伺

第八十二條

(岡山縣) 人民ノ情願ニ因リ開屆候神社明細帳ニ編入ニ不及哉否ノ儀ニ付伺

第八十三條

(京都府) 神社什物帳ニ府縣印分捺ノ儀ニ付伺

第百八十四條

(島根縣) 神官職務ノ儀ニ付伺

第百八十五條

(廣島縣) 神社ノ金具ヲ盜ムモノ云々ノ儀ニ付伺

第百八十六條

(福島縣) 空社拂下ノ儀ニ付伺

第百八十七條

(島根縣) 郷社祭典費等支出ノ儀ニ付伺

第百八十八條

(兵庫縣) 神社地崩落ノ儀ニ付取片付入費ノ儀ニ付伺

第百八十九條

(椽木縣) 東照宮社入取扱ノ儀ニ付伺

第百九十條

(東京府) 稻荷社遷坐ニ付拜借地ノ儀ニ付伺

第百九十一條

(長崎縣) 宗派ヲ撰出カレタル者教導職ニ撰舉ノ可

否ノ儀ニ付伺

第百九十二條

(滋賀縣) 縣社例祭官吏參向ノ儀ニ付伺

第百九十三條

(奈良縣) 神道布教ノ金額縣廳へ預置ノ儀ニ付伺

第百九十四條

(東京府) 宮殿造營寄附金ノ儀ニ付伺

第十五章 社寺境內地所并舊領地處分手續
第九十五條

(山梨縣) 神社自費開墾地處分ノ儀ニ付伺

第九十六條

(新治縣) 同上

第九十七條

(敦賀縣) 社寺領地跡處分伺出有無ノ儀ニ付伺

第九十八條

(名東縣) 神社地收稅ノ儀ニ付伺

第九十九條

(山梨縣) 社寺境內外區畫取調方ノ儀ニ付伺

第二百條

(水澤縣) 社寺樹木伐採ノ贓物上納方ノ儀ニ付伺

第二百一條

(茨城縣) 往還道換ノ儀ニ付伺

第二百二條

(足柄縣) 八年內務省第四十九號達處分方ノ儀ニ付伺

第二百三條

(磐前縣) 社寺上地拂下ノ儀ニ付伺

第二百四條

(名東縣) 社寺境內へ人家取建可否ノ儀ニ付伺

第二百五條

(和歌山縣) 國幣社中立枯ノ樹木等御拂下ノ儀ニ付伺

第二百六條

(山梨縣) 舊神官墓地ノ儀ニ付伺

第二百七條

(飾磨縣) 神社境内地名稱區別ノ儀ニ付伺

第二百八條

(福島縣) 社寺内外取調ノ儀ニ付上申

第二百九條

(大分縣) 御達中朱黒印地トハ舊幕府ヨリ授與ノ朱

黒印ニ限リ候哉否ノ儀ニ付伺

第二百十條

(足柄縣) 寺院舊繩受ノ地所拂下願出ノ儀ニ付伺

第二百十一條

(秋田縣) 社寺境内伐木ノ儀ニ付伺

第二百十二條

(度會縣) 同上

第二百十三條

(名東縣) 社寺境内ニ建設アル家屋拂下ノ儀ニ付伺

第二百十四條

(東京府) 府下神田花岡町鎮火社境内地官有第一種

ニ組入ノ儀ニ付伺

第二百十五條

(東京府) 同上鎮火社境内貸渡ノ儀ニ付伺

第二百十六條

(長野縣) 神社境内外ノ樹木盜伐ノ者處分ノ儀ニ付

伺

第二百十七條

(愛知縣) 舊社寺上地田畑官私區別ノ儀ニ付伺

四四

第二百十八條

(新潟縣) 祠官寺職ノ者境内ノ樹木伐採處分ノ儀ニ付伺

第二百十九條

(箱館裁) 官幣大社ノ攝社ノ神御物ヲ盜ムモノ并社寺境内ノ樹木ヲ伐採スルモノ處分ノ儀ニ付伺

第二百二十條

(千葉裁) 社寺境内ノ樹木ヲ擅伐スルモノ處分ノ儀ニ付伺

第二百廿一條

(新治裁) 官林及社寺境内樹木ヲ毀伐スル者處分方ノ儀ニ付伺

第二百廿二條

(東京裁) 神社佛寺所有ノ地面モ什物ト心得可然哉否ノ儀ニ付伺

第二百廿三條

(和歌山縣) 社寺境内ノ樹木擅伐シテ未タ費用セサル者處分ノ儀ニ付伺

第二百廿四條

(筑摩縣) 社寺開墾田地分與米ノ儀ニ付伺

第二百廿五條

本朝民鑑第二版四五編索引社寺境内地所并舊領地處分手續ノ部

四五

(高知縣) 神社境内并寺院境内等へ茶店取設ノ儀ニ付伺

第二百廿六條

(度會縣) 無檀無住ノ廢寺所有田畑山林等村持ニ致シ可然ヤノ儀ニ付伺

第二百廿七條

(東京府) 御陵墓洒掃諸具入費支拂ノ儀ニ付伺

第二百廿八條

(岐阜縣) 教院開設地所拂下願ノ儀ニ付伺

第二百廿九條

(秋田縣) 神社寄附品差戻ノ儀ニ付伺

第二百三十條

(山梨縣) 官有地上ニ建設アル社寺公有官有區別ノ儀ニ付伺

第二百卅一條

(茨城縣) 社寺修繕ノ爲メ境内除地ノ樹木伐採ノ儀ニ付伺

第二百卅二條

(新川縣) 神官僧侶ニ於テ資金ヲ以開墾セシ田畑御拂下代金下戻ノ儀ニ付伺

第二百卅三條

(熊谷縣) 社寺境内ニ生立竹伐採ノ儀ニ付伺

第二百卅四條

(椽木縣) 社寺境内伐木ノ儀心得方ノ儀ニ付伺

第二百卅五條

本朝民鑑第二版四五編卷索引社寺境内地所并舊領地處分手續ノ部 四七

(筑摩縣) 寺院寄附地引戻ノ儀ニ付伺

第二百卅六條

(同 縣) 寺院寄附地質入處分ノ儀ニ付伺

第二百卅七條

(千葉縣) 寺院修繕ノ爲除地ノ樹木伐採ノ儀ニ付伺

第二百卅八條

(山梨縣) 社寺領上地處分方ノ儀ニ付伺

第二百卅九條

(東京府) 社寺上地跡處分規則中疑義件々ノ儀ニ付伺

第二百四十條

(静岡縣) 社寺門前拜借地ノ儀ニ付伺

第二百四十一條

(三浦縣) 寺院上地跡竹藪無代價下渡ノ儀ニ付伺

第二百四十二條

(堺 縣) 寺院地移轉ノ儀ニ付伺

第二百四十三條

(島根縣) 一寺住職ノ者死去ノ節葬儀ノ儀ニ付伺

第二百四十四條

(千葉縣) 寺院住職開墾ノ地無代下渡スヘキ見込ニ
テ調中本人死去スルキハ官沒シテ可然ヤ
否ヤノ儀ニ付伺

第二百四十五條

(山梨縣) 寺院跡地拂下ノ儀ニ付伺

第二百四十六條

(高知縣) 寺院隔絶ノ地へ出張所取設佛事取扱ノ儀
ニ付伺

第二百四十七條

(東京府) 寺院境内地ノ土石堀取ノ儀ニ付伺

第二百四十八條

(福島縣) 寺院相當ノ住職無之等ニテ一時据置兼候
節兼務ノ住職差置度儀ニ付伺

第二百四十九條

(石川縣) 僧侶宗派稱號ノ儀ニ付伺

第二百五十條

(福島縣) 寺院再興ノ儀ニ付伺

第二百五十一條

(長野縣) 社寺跡地拂下金ノ儀ニ付伺

第二百五十二條

(三重縣) 社寺持地中ニアル建家書入質ニ爲ノトス
ルル興書ノ儀ニ付伺

第二百五十三條

(山梨縣) 神官僧侶直作地下渡ノ儀ニ付伺

第二百五十四條

(長野縣) 宗派稱號ノ儀ニ付伺

第二百五十五條

(島根縣) 祠官掌忌引中除服願出ノ節處分ノ儀ニ付
伺

第二百五十六條

本朝民鑑第二版四五編卷索引社寺境内地所并舊領地處分手續ノ部

(福島縣) 路傍或ハ山野ニ建立セル石碑社寺へ移轉ノ儀ニ付伺

第二百五十七條

(山形縣) 官國幣社祭典ノ節供奉ノ者帶刀ノ儀ニ付伺

第二百五十八條

(三重縣) 神社境内樹木枝葉切透ノ儀ニ付伺

第二百五十九條

(京都府) 官國幣社へ兵隊騎馬ニテ乘入ノ儀ニ付伺

第二百六十條

(東京府) 社寺金穀借入所有物抵當ノ儀ニ付伺

第二百六十一條

(島根縣) 各宗庵室住職差置ノ儀ニ付伺

第二百六十二條

(神奈川縣) 土地ノ收益ヲ神社へ寄附スル者處分ノ儀ニ付伺

第二百六十三條

(千葉縣) 廢寺院跡庵室取立ノ儀ニ付伺

第二百六十四條

(三重縣) 寺院住職自費ヲ以テ建築セシ庫裏并坐敷等賣買質入ノ儀ニ付伺

第二百六十五條

(熊谷縣) 多胡郡池村地内古碑保存ノ儀ニ付伺

第二百六十六條

(新川縣) 神社境内公園地取設ノ儀ニ付伺

第二百六十七條

(宮城縣) 舊神官ノ者ニ家祿奉還士族同權地所官林

拂下ノ儀ニ付伺

第二百六十八條

(新治縣) 萬里小路藤房卿髮塔及建碑敷地ノ儀ニ付

伺

第二百六十九條

(敦賀縣) 寺院ニ寄附ノ田畑取戻之儀ニ付伺

第十六章 廢合寺院跡地並建物處分規則

第二百七十條

(足柄縣) 人民寄附ノ土地貢租ノ儀ニ付伺

第二百七十一條

(大分縣) 寺院廢止願出候節處分ノ儀ニ付伺

第二百七十二條

(山梨縣) 廢寺院所屬ノ田畑質入ノ分處分ノ儀ニ付

伺

第二百七十三條

(山梨縣) 廢寺院跡地百姓繩受ノ田畑山林等處分ノ

儀ニ付伺

第二百七十四條

(福島縣) 寺院ノ内修驗宗ニテ院號ヲ唱ヘ居ル者處

分ノ儀ニ付伺

第二百七十五條

(福島縣) 同上再伺

第二百七十六條

(山梨縣) 廢寺院所屬人民ヨリ寄附ノ地所ニテ質入
書入等不相成旨証書明文有之分處分ノ儀
ニ付伺

第二百七十七條

(敦賀縣) 舊修驗者宅地處分ノ儀ニ付伺

第二百七十八條

(三重縣) 廢寺後自費開墾ノ地相當代價拂下ノ儀ニ付伺

第二百七十九條

(愛媛縣) 廢寺附人民寄附地處分ノ儀ニ付伺

第二百八十條

(敦賀縣) 廢寺院敷地及田畑山林等上申

第二百八十一條

(島根縣) 寺院合併寺號ノ儀ニ付伺

第二百八十二條

(同 縣) 同上ノ儀ニ付再伺

第十七章 朱引内河岸地規則

第二百八十三條

(東京府) 官有河岸場拜借ノ儀伏見宮家令ヨリ願出
ノ儀ニ付伺

第二百八十四條

本朝民鑑第二版四五編卷索引朱引内河岸地規則ノ部

(東京府) 河岸地先下水等費用ノ儀ニ付伺

第二百八十五條

(椽木縣) 河岸場取設ノ儀願出處分ノ儀ニ付伺

第十八章 官有地土石堀取規則

第二百八十六條

(山口縣) 土石堀取規則中疑義ニ付伺

第二百八十七條

(飾磨縣) 土石堀取年限ノ儀ニ付伺

第二百八十八條

(山口縣) 土石堀取規則府縣事務章程第四十七條ニ

抵觸ノ儀ニ付伺

第二百八十九條

(長野縣) 藥種堀取ノ儀ニ付伺

第十九章 諸業取締規則

第二百九十條

(足柄縣) 溫泉場營業ノ儀ニ付伺

第二百九十一條

(長崎縣) 賍物搜索便利ノ爲商業規則ヲ定ムル儀ニ

付伺

第二百九十二條

(若松縣) 旅籠屋煮賣茶屋渡世鑑札ノ儀ニ付伺

第二百九十三條

本朝民鑑第二版四五編索引官有地土石堀取規則ノ部
本朝民鑑第二版四五編索引諸業取締規則ノ部

(名東縣) 藍及藻賣買取引ヨリ起ル訴訟ノ儀ニ付伺

第二百九十四條

(宮城縣) 公園地内諸商人ヨリ賦金取立ノ儀ニ付伺

第二百九十五條

(敦賀縣) 盲人授業所取結願ノ儀ニ付伺

第二百九十六條

(京都府) 紺青「ア」ヨリ「ン」ヲ以テ菓子等ノ着色ニ用ユル者差止ノ儀ニ付伺

第二百九十七條

(熊谷縣) 諸車檢印料ノ儀ニ付伺

第二百九十八條

(度會縣) 魚商社議定書申合ニ背キシ者ノ儀ニ付伺

第二百九十九條

(新川縣) 公園地内休息所等取設ノ儀出願處分ノ儀ニ付伺

第三百條

(敦賀縣) 織職ノ者ニ鑑札下渡ノ儀ニ付伺

第三百一條

(相川縣) 質屋古着屋其外冥加金差出ノ儀ニ付伺

第三百二條

(鶴岡縣) 諸僧住職等商業ノ儀ニ付伺

第三百三條

(山梨縣) 過料等ニ係ル諸規則設立ノ節心得方ノ儀ニ付伺

第三百四條

(新潟縣) 地方廳限取立ノ賦金ハ可伺出ヤ否ノ儀ニ付伺

本朝民鑑第二版四五編卷索引諸業取締規則ノ部

第三百五條

(東京府) 公園地出稼營業人處分ノ儀ニ付伺

第三百六條

(石川縣) 官員ニシテ諸會社ノ株主トナルハ不苦ヤ
否ノ儀ニ付伺

第三百七條

(神奈川縣) 諸營業上規則違犯ノ者ヨリ取立タル過怠
金上納方ノ儀ニ付伺

第三百八條

(京都府) 川蒸氣船免狀下渡ノ儀ニ付伺

第三百九條

(東京裁判所) 古着古金渡世取締規則第二條改正ノ儀ニ

付伺

第三百十條

(山形縣) 諸興行賦金不納者罰則施行ノ儀ニ付伺

第三百十一條

(東京裁判所) 古着古金渡世取締規則第二條典賣云々ノ
儀ニ付伺

第三百十二條

(東京裁判所) 商賈及遊技ノ賦金不納者處分ノ儀ニ付伺

第三百十三條

(千葉縣) 諸職業鑑札遺失誤毀ノ者處分ノ儀ニ付伺

第三百十四條

(大分縣) 士族ノ輩勸進能興行出願ノ儀ニ付伺

第三百十五條

(東京府) 諸營業鑑札遺失誤毀等ノ者處分ノ儀ニ付伺

第三百十六條

(神奈川縣) 有毒ノ染草賣買禁止ノ儀ニ付伺

第三百十七條

(東京府) 五代友厚監製出願ノ儀ニ付伺

第三百十八條

(東京裁判所) 手拭曆販賣ノ者處分ノ儀ニ付伺

第三百十九條

(大分縣) 士族ノ鬻擊劍會執行ノ儀ニ付伺

第三百二十條

(東京府) 外國人所有ノ川蒸源借受營業ノ儀ニ付伺

第三百廿一條

(高知縣) 士族ノ婦女管絃ヲ以テ營業スル儀差止ル

第三百廿二條

(山梨縣) 一寺住職ノ家族寺院ニ於テ商業出願ノ儀

第三百廿三條

ニ付伺

第二十章 公私諸荷物及人馬繼立規則

第三百廿三條

(石川縣) 飛脚渡世ノ者營業出願ノ節ハ縣廳限リ聞

第三百廿四條

届不苦ヤ否ノ儀ニ付伺

本朝民鑑第二版四五編卷索引公私諸荷物及人馬繼立規則ノ部

(敦賀縣) 八年內務省甲第七號布達但書ノ儀ニ付伺

第三百廿五條

(滋賀縣) 同上處分方ノ儀ニ付伺

第三百廿六條

(飾磨縣) 物貨運送營業出願者資本具上ノ儀ニ付伺

第三百廿七條

(滋賀縣) 長途運送業ト人馬繼立業トノ區分ノ儀ニ

付再伺

第三百廿八條

(小倉縣) 人力車稼ノ者通運會社ニ加入ノ儀ニ付伺

第三百廿九條

(白川縣) 人馬往復便宜ノ爲人馬繼立所設置ノ儀ニ

付伺

第三百三十條

(長崎縣) 問屋營業ノ者旅客燕談ヲ以テ人馬厩上ノ

儀ニ付伺

第三百卅一條

(山形縣) 物貨運送營業區分ノ儀ニ付伺

第三百卅二條

(千葉縣) 通運會社繼立人馬賃錢額縣廳ニ於テ査定

ノ儀ニ付伺

第三百卅三條

(岐阜縣) 通運會社妨碍ノ儀ニ付布達方同社ヨリ出

願ノ儀ニ付伺

第三百卅四條

(長崎縣)

馬持ノ者共又ハ他ノ人馬ヲ雇ヒ繼立所ヲ設ケ
營業ノ儀聞届鑑札下渡可然ヤ否ノ儀ニ付伺

第三百卅五條

(大分縣)

人馬繼立所ノ儀ニ付伺

第三百卅六條

(名東縣)

本廳支廳ノ間ニ往復ノ遞送費官民費區別
ノ儀ニ付伺

第三百卅七條

(飾磨縣)

宿驛稱呼ノ儀ニ付伺

第三百卅八條

(滋賀縣)

人馬繼立場所等ノ儀ニ付伺

第三百卅九條

(茨城縣)

非常出兵等ノ節各驛加助組合設置ノ儀ニ
付伺

第三百四十條

(兵庫縣)

非常出兵戍兵交番ノ節人馬繼立章程第十
一項ノ儀ニ付伺

第三百四十一條

(和歌山縣)

人馬呼出狀遞送費ノ儀ニ付伺

第二十一章 疫牛處分假規則

第三百四十二條

(静岡縣)

牛馬傳染病流行ニ付上申并右藥劑之儀照會

本朝民鑑第二版四五編索引疫牛處分假規則ノ部

第三百四十三條

(長崎縣) 道路ニ斃牛有之右取片付費用ノ儀ニ付伺

第三百四十四條

(和歌山縣) 疫馬撲殺賠償金ノ儀ニ付伺

第二十二章 患者死亡届書式

第三百四十五條

(橡木縣) 患者死亡届差出ノ儀ニ付伺

第三百四十六條

(京都府) 患者死亡届ハ半年分取纏メ差出不苦哉ノ儀ニ付伺

第二十三章 埋葬及埋葬地規則

第三百四十七條

(愛知縣) 行倒人檢視埋葬ノ後所持品ハ如何取計フニキヤノ儀ニ付伺

第三百四十八條

(滋賀縣) 埋葬地新設并火葬ノ儀ニ付伺

第三百四十九條

(石川縣) 火葬ノ遺骨舊墓所ニ合葬ノ儀ニ付伺

第三百五十條

(大坂府) 埋葬場ニテ火葬取扱ノ場所處分方ノ儀ニ付伺

第三百五十一條

(滋賀縣) 火葬地ノ儀ニ付伺

本朝民鑑第一版四五編卷索引患者死亡届書式ノ部
本朝民鑑第二版四五編卷索引埋葬及埋葬地規則ノ部

第三百五十二條

(京都府) 市街區域内ノ寺院埋葬禁止ノ儀ニ付伺

第三百五十三條

(大坂府) 火葬禁止中埋葬濟ノ者更ニ火葬出願ノ儀ニ付伺

第三百五十四條

(岡山縣) 管下人民ノ内不受派等信仰ヨリ自葬取計候者有之右處分方ノ儀ニ付伺

第三百五十五條

(滋賀縣) 埋葬地取設ノ儀ニ付伺

第三百五十六條

(筑摩縣) 七年内務省乙第二十二號達中招魂場云々

ノ儀ニ付伺

第三百五十七條

(福島縣) 神官等葬儀ニ携ハル節死體檢視ノ儀ニ付伺

第三百五十八條

(山形縣) 八年内務省乙第十二號達ノ儀ニ付伺

第三百五十九條

(鳥取縣) 招魂社祭祀執行出願ノ儀ニ付伺

第三百六十條

(磐前縣) 八年内務省乙第二十三號達ノ儀ニ付伺

第三百六十一條

(椽木縣) 招魂社祭祀ノ儀ニ付伺

第三百六十二條

(岐阜縣) 招魂場ノ儀ニ付伺

第三百六十三條

(磐前縣) 同上

第三百六十四條

(石川縣) 招魂社祭祀ノ儀ニ付伺

第三百六十五條

(岩手縣) 無籍ノ者死亡埋葬入費ノ儀ニ付伺

第三百六十六條

(東京府) 從軍殉難ノモノ墳墓修繕費等ノ儀ニ付伺

第三百六十七條

(長崎縣) 新墓地取設出願ノ儀ニ付伺

第三百六十八條

(茨城縣) 行旅病死變死人等埋葬入費ノ儀ニ付伺

第三百六十九條

(東京府) 近藤勇墳墓取建ノ儀ニ付伺

第三百七十條

(山形縣) 從軍殉國ノ者墳墓改葬ノ儀ニ付伺

第三百七十一條

(千葉縣) 遺骸改葬ノ儀ニ付伺

第三百七十二條

(椽木縣) 埋葬地ト墓碑トヲ異ニスル者差止ノ儀ニ

付伺

第三百七十三條

本朝民鑑第二版四五編卷索引埋葬及埋葬地規則ノ部

(大坂府) 寄留人埋葬ノ後再火葬ノ儀一族ヨリ願出
ノ節ハ聞届不苦ヤ否ノ儀ニ付伺

第三百七十四條

(石川縣) 病死ノ軍人招魂社ニ合祀ノ儀ニ付伺

第三百七十五條

(青森縣) 懲役中病死ノ者所持金云々ノ儀ニ付伺

第三百七十六條

(三重縣) 行倒人假埋ノ骨路堀出醫術研究ノ所用ニ
供シ不苦ヤ否ノ儀ニ付伺

第三百七十七條

(茨城縣) 縣下富田平藏亡二男子ノ吉死體縦覽ノ儀
ニ付伺

第三百七十八條

(静岡縣) 埋葬地名稱區分ノ儀ニ付伺

第三百七十九條

(警視廳) 宅禁獄ノ者祖父母父母死亡ノ節出門葬式
執行願ノ儀ニ付伺

第三百八十條

(神奈川縣) 救育所ニ於テ病死ノ者解剖ノ儀ニ付伺

第三百八十一條

(警視廳) 宅禁獄ノ者出門葬式云々ノ儀ニ付再伺

第三百八十二條

(新潟縣) 各寺院僧侶ノ者名稱ノ儀ニ付伺

第三百八十三條

(福島縣) 乞食體ノ行斃人解剖ノ儀ニ付伺

第三百八十四條

(長野縣) 住職ニ非ナル徒弟ノモノ法務執行ノ儀ニ付伺

第三百八十五條

(高知縣) 轉宗改葬承認書ノ儀ニ付再伺

第三百八十六條

(山形縣) 無籍ノ拘留人吟味中病死ノ節取片付入費等ノ儀ニ付伺

第三百八十七條

(山梨縣) 教導職ノ輩自葬ノ儀ニ付伺

第三百八十八條

(度會縣) 行倒人埋葬入費ノ儀ニ付伺

第三百八十九條

(長崎縣) 招魂社監守ノ儀ニ付伺

第三百九十條

(大分縣) 招魂社祭ニ付休廳并官員一同參拜等ノ儀ニ付伺

第三百九十一條

(秋田縣) 招魂社合祀ノ儀ニ付伺

第二十四章 禁令

第三百九十二條

(山形縣) 地方長次官警察上出張ノ節帶刀ノ儀ニ付

伺

第三百九十三條

(警視廳) 帶刀禁止違犯ノ者處分ノ儀ニ付伺

第三百九十四條

(函館裁判所) 同上ノ儀ニ付伺

第三百九十五條

(司法省ヨリ) 刀劍携帶ノ儀ニ付伺
(正院ニ伺)

第三百九十六條

(大分縣) 帶刀禁止違犯者處分ノ儀ニ付伺

第三百九十七條

(東京府) 擊劍術習練ノ儀ニ付伺

第三百九十八條

(山梨縣) 非常急變ノ節縣官帶刀ノ儀ニ付伺

第三百九十九條

(埼玉縣) 帶刀禁止ニ付心得方ノ儀ニ付伺

第二十五章 官吏懲戒例

第四百條

(山形縣) 長官懲戒處分心得第七條ノ儀ニ付伺

第四百一條

(熊谷裁判所) 懲戒例中等外吏ノ條無之ニ付伺

第四百二條

(和歌山縣) 巡查ノ儀ハ官吏懲戒例ニ據ラヌシテ可然
ヤノ儀ニ付伺

第四百三條

(東京裁判所) 非職ノ人民官ノ文書ヲ棄毀或ハ遺失スル等ノ者處分ノ儀ニ付伺

第四百四條

(三重縣) 官吏公罪待罪書ノ儀ニ付伺

第四百五條

(京都府) 懲戒例第五條但書ノ儀ニ付伺

第四百六條

(濱松縣) 懲戒例決行主從ノ儀ニ付伺

第四百七條

(埼玉裁判所) 懲戒例中第一條第九條等ノ儀ニ付伺

第四百八條

(廣島縣) 棄毀官文書詔書有違等罪犯處分ノ儀ニ付伺

伺

第四百九條

(山梨縣) 小學校訓導過失アルキ懲戒例第一項ニ依リ處分ノ儀ニ付伺

第四百十條

(鳥取縣) 官吏免職ノ日限定メ方ノ儀ニ付伺

第四百十一條

(大分縣) 免職ノ巡查採用ノ節ハ懲戒處分必得第七項ニ依ルヘキヤ否ノ儀ニ付伺

第四百十二條

(福岡縣) 一時傭入ノ繩取又ハ不寐番等罪囚逃走ヲ

覺ラサル節處分ノ儀ニ付伺

第四百十三條

(廣島縣)

士族平民管轄ノ文書等遺失誤毀スル節處分ノ儀ニ付伺

第四百十四條

(兵庫裁判所)

懲戒例發行疑義ニ付伺

第四百十五條

(山梨裁判所)

私罪及ヒ職務上ノ過失俱ニ發スルキ處分ノ儀ニ付伺

第四百十六條

(堺縣)

職制律被廢ニ付テハ士族平民律例第三百十條ヲ犯シタル節處分ノ儀ニ付伺

第四百十七條

(和歌山縣)

贓金主守ノ官吏賊ノ爲メニ被盜ヲ覺ラサル節償還ノ儀ニ付伺

第四百十八條

(西寒多神社)

懲戒例御達ニ付テハ一社神官黜免具狀等モ右成規ニ依ルヘキヤ否ノ儀ニ付伺

第四百十九條

(山梨縣)

戶長懲戒ノ儀ニ付伺

第四百二十條

(兵庫縣)

懲戒例ニ觸レタル官吏ヨリ領置ノ月俸警察費ニ係ルモノハ内務省ヘ送付シ可然ヤ否ノ儀ニ付伺

第四百廿一條

(島根縣) 謄賣書書式ノ儀ニ付伺

第四百廿二條

(岩手縣) 十五日以後處分ニ係ル官吏月俸追徴ノ儀ニ付伺

第四百廿三條

(長崎縣) 免職後ニ發覺スル過失ハ不問ニ置キ可然ヤ否ノ儀ニ付伺

第四百廿四條

(愛媛縣) 贓金紛失ノ節管守ノ官吏ヨリ賠償ノ儀ニ付伺

第四百廿五條

(高知縣) 官吏公務上諸罰則違犯ノ節處分ノ儀ニ付伺

第四百廿六條

(青森縣) 公用文書等官ノ物品ヲ取扱ハセタル傭夫懲戒ノ儀ニ付伺

第四百廿七條

(千葉縣) 懲戒ニ處スヘキ者其事件ヨリ金錢或ハ建物等ノ毀損ニ係ル節償却ノ儀ニ付伺

第四百廿八條

(和歌山縣) 官吏月俸追徴ノ儀ニ付伺

第四百廿九條

(大坂府) 官吏逃亡ノモノハ捕縛ト上免職ノ辭令ヲ

渡サスシテ可然ヤノ儀ニ付伺

第二十六章 巡查懲戒例

第四百三十條

(警視廳) 巡查懲罰金ハ本廳ニ於テ積金ニ備置度旨ノ儀ニ付伺

第四百卅一條

(滋賀縣) 巡查勤績契約書ニ違背ノ者懲罰ノ儀ニ付伺

第四百卅二條

(島根縣) 巡查懲罰例第五條ノ儀ニ付伺

第四百卅三條

(山形縣) 巡查懲罰例ニ照シ免職ノ者再願年限ノ儀ニ付伺

第四百卅四條

(愛知縣) 巡查懲罰例第三條ノ儀ニ付伺

第二十七章 賣淫取締規則

第四百卅五條

(三階縣) 料理店等ノ婦女客ノ挑ニ應シ和淫ノ後物品貰受ル者ハ賣淫ト見做シ可然哉否ノ儀ニ付伺

第四百卅六條

(滋賀縣) 有夫賣淫ノ儀ニ付伺

第四百卅七條

本朝民鑑第二版四五編卷索引巡查懲戒例ノ部
本朝民鑑第二版四五編卷索引賣淫取締規則ノ部

(福島縣) 官ノ許可ヲ受ケスシテ賣淫スルモノ云々ノ儀ニ付伺

第四百卅八條

(滋賀縣) 賣淫取締ノ儀警視廳へ被任ニ付右公布ノ前後ニ拘ラス刑法上不問ニ付シ可然哉ノ儀ニ付伺

第四百卅九條

(同 縣) 同上

第四百四十條

(山梨縣) 賣淫懲罰ノ儀ハ地方官ニ於テ直チニ處斷スヘキヤ否ノ儀ニ付伺

第四百四十一條

(佐賀裁判所) 賣淫取締警視廳へ被任ニ付テハ右公布前

口供甘結ノ分ニ地方廳へ差廻シ可然哉否ノ儀ニ付伺

第四百四十二條

(三重縣) 娼妓檢査等ノ諸費計算事務繁劇ニ付官員増置ノ儀ニ付伺

第四百四十三條

(青森縣) 賣淫懲罰金縣税金ニ組入レノ儀ニ付伺

第四百四十四條

(滋賀縣) 賣淫懲罰例施行前ノ罪犯ハ刑法上不問ニ付シ可然哉ノ儀ニ付伺

第二十八章 貸坐敷娼妓規則

第四百四十五條

(名東縣) 金圓抵當ノ爲メ年期ヲ以テ娼妓ヲ爲ス者並養女和賣等ノ儀ニ付伺

第四百四十六條

(新潟縣) 女工場創建ノ儀ニ付伺

第四百四十七條

(佐賀縣) 娼妓賦金ヲ以テ道路營繕逕卒取締入費等ニ充テ可然哉ノ儀ニ付伺

第四百四十八條

(兵庫縣) 娼妓賦金遣拂ノ儀ニ付伺

第四百四十九條

(敦賀縣) 娼妓千代女授業所ニ寄付金願ノ儀ニ付伺

第四百五十條

(静岡縣) 娼妓賦金縣限仕拂ノ儀ニ付伺

第四百五十一條

(警視廳) 士族ニシテ貸坐敷或ハ娼妓渡世許否ノ儀ニ付伺

第四百五十二條

(青森縣) 娼妓並貸坐敷賦金遣拂ノ儀ニ付伺

第四百五十三條

(島根縣) 娼妓賦金名稱並遲納者處分ノ儀ニ付伺

第廿九章 讒謗律

第四百五十四條

(司法省ヨリ
大政官へ伺)

讒謗律第一條第八條新聞條例第一條第七條第十四條第十五條等ノ儀ニ付伺

第四百五十五條

(滋賀縣)

讒謗ニ觸レタル者ハ官吏華士族ヲ問ハス
禁獄罰金ニ處シ可然哉其他同律中疑義ノ
件々ニ付伺

第四百五十六條

(司法省ヨリ
正院へ伺)

讒謗律中疑儀ニ付伺

第四百五十七條

(京都裁判所)

讒謗律第七條第四條第五條等ノ儀ニ付伺

第四百五十八條

(京都裁判所)

讒謗律ヲ一家共犯スル者並自首スル者等
處分ノ儀ニ付伺

第四百五十九條

(山梨縣)

官廳へ差出ス願書中人ヲ讒謗スル者處分
ノ儀ニ付伺

第四百六十條

(司法省ヨリ
正院へ伺)

讒謗律中正條ナキ者處分ノ儀ニ付伺

本朝民鑑第二版

第四編合卷

第一章

學制

第一條

明治八年二月七日北
條縣内務省へ伺

師範學校より派出ノ訓導ハ等級御定有之候得共當縣於

傳習所講習爲致候上文部省へ伺ヲ經訓導心得ノ名儀ヲ

以テ該縣適宜ノ等級ヲ設別紙表式ノ通給料差遣管内各

小學校へ在勤爲致候者正副戸長或ハ等外吏等列席ノ節

順次如何心得可然哉相伺候也

(指令)

學制

田中 信 顯 編 纂

書面其縣適宜ヲ以等級相定候小學訓導心得ノ者ハ等外
 吏及正副戸長ノ次席ト可相心得候事
 (別紙)

小學訓導心得月等級表

一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等
十圓	九圓	八圓	七圓	六圓	五圓	四圓

第二條

明治八年三月九日濱松縣ヨリ内務省へ伺

女學ハ幼稚教育ノ基礎ニシテ忽セニス可カラサル旨既
 皇太后宮ノ親諭アリ實ニ方今振興スヘキノ一大要務
 存候間縣下濱松舊城内へ今度女工場設立致シ度右建
 築入用ノ儀ハ縣限收領賦金ノ内ヲ以て遣拂敷員給料諸雜

費等ハ生徒月謝有志献納等ヲ以て補償ノ見込ニ付御許可
 有之度相伺候也

(指令)

書面ノ趣聞届候事

但有志ノ者差出金及賦金遣拂等ノ儀ハ追テ可届出事

第三條

明治八年三月十七日山梨縣ヨリ内務省へ伺

昨七年太政官公布學制中掲載ノ中小學區學校設立ノ數
 限リ學校地所トシテ中學ハ千坪小學ハ五百坪以内無
 代價御下渡相成候間無稅官有地ニ於テ便宜ノ地所ヲ撰
 シ御省へ可申出旨御達有之其後杉浦地理頭ヨリ御省定
 規ノ趣ヲ以て差廻ノ箇條中ニ從前學校無之場所ニ限リ無

學制

代價下與セラレ已ニ建設ノモハ更ニ外場所ニ於テ御
下渡不相成旨書載有之就テハ於縣下舊幕府ノ節勤之士
ノ爲メ官費設立ノ學校舊徵典館除稅地追テ中學校地ニ
換用ノ見込ヲ以無代價御下渡相成度尤中學校坪數制限
ヨリ少々過當ニ候得共從來一區畫ヲ成居候間其儘御下
渡相成候ハ、民有地第二種ニ編入可致段相伺候處學校
敷地ノ儀追テ中學校設立ノ爲御下渡ハ御聞屆難相成現
今小學校設立有之候ハ、制限ノ坪數無代價御下渡其餘
ハ相當代價ニテ拂下候手又ハ當分拜借地ニ取計候手取
調可申出旨御指令有之全體前條中小學校敷地無代價被
下方定規條中ニ從前學校無之場所ニ限リ敷地無代價ニ
テ被下既ニ建設ノ者ハ更ニ外場所ニ於テ御下渡不相成

旨ニ付テハ既ニ建設スル人民却テ不幸ニ當リ如何ニモ
不公平ノ様相考ヘ猶又換用地被下方ノ次第地理頭ヘ及
商議候處此等ハ特別ノ殊典ニ出候儀ニ付發令ノ日ヲ限
トシ處分可致旨回答有之就テハ當縣中學校ノ儀ハ未ダ
界開設セサル者ニ付無論御下渡有之儀ト相心得罷在候
處追テ設立ノ爲御下渡ハ御聞屆難相成趣ニテハ最前學
校敷地トシテ中學ハ千坪小學五百坪以內無代價御下渡
云々ノ旨及地理頭ニ照會セシ從前學校無之場所ニ限リ
無代價御下渡可相成トノ御省規ニモ相違致候ヤニ相考
ヘ一般取調方ニ差問候右ハ已ニ設立ノ分又後日設立ス
ヘキ分ハ御下渡無之即今設立ノ分ニ御下渡可相成ト
ノ御主意ニモ可有之ヤ然ルモハ中學ノ如キ上下二等ノ

小學課程卒業ノ期ニ不至テハ設立不致順序ニ付即今設立スヘキモノニ無之候間到底無代價御下渡難相成筋ニ相當リ彼是了解致兼相伺候也

(指令)

書面中小學校地所下渡ノ儀ハ現今致設立候分ニ限リ候儀ニ有之候條追ニ設立ノ分ハ其都度伺出候儀ト可相心得事

第四條

明治八年五月五日千葉縣ヨリ内務省ヘ伺

管下安房國安房郡佐野村平民安西久左衛門孫安西竹治儀今般濟國上海日本領事館町田實一方ヘ支那學爲修行向三ヶ年間罷越度旨別紙ノ通出願候ニ付聞届可然哉相

伺候也 別紙除之

(指令)

書面安西竹治願ノ趣ハ聞届不苦免狀ノ儀ハ外務省ヘ可申出候事

第五條

明治八年五月五日筑摩縣ヨリ内務省ヘ伺

管下小學校檢査且生徒進歩ノ實際試驗ノ爲メ當縣師範學校ノ教員召連巡視ノ節格別優等俊秀ノ者ヘハ書籍或ハ學器等委託金額ノ内ヲ以適宜授與取計將來ヲ勸奨致度趣客歲十月中文部省伺濟相成候處有志ノ者共ヨリ往來學校ヘ寄附献納金等致シ夫々御褒賞ニモ相成候分許多有之右金員ハ既ニ公立學校金ニ屬候儀ニテ右金員ヲ

學制

以テ褒賞取計尤献金等モ無之不得止分ハ委托金ヲ以テ
優等ノ者へ器械書籍等夫々授與取計度一ハ生徒將來ノ
奮勵ヲ鼓舞シ一ハ其校父兄献金ノ者ハ眼前子弟ノ資用
ニ充ルヲ感激シ一層勸奨ニモ可相成今般文部省へ中立
候へ共御賞與筋ノ儀ニ付具狀候也

(指令)

書面ノ趣聞置候事

第六條

明治八年四月十五日小
澤縣ヨリ内務省へ伺

管下學校教員文部省設立師範學校ノ傳習ニ準シ釐正候
處皇漢洋ヲ相兼ルノ學風ニ一變シ候ニ付一月一日調職
分表皇學其他ノ諸學名ニ牒觸記載方差支候何レノ野ニ

取調可然哉相伺候也

(指令)

書面伺ノ趣其學科ヲ部分シ皇學支那學及英佛學外ニ欄
ノ内へ各其學名ヲ記載可届出事

明治八年五月十九日鳥
取縣ヨリ内務省へ伺

管下市街郡村小學校敷地ノ儀明治七年第三百三十一號公
布ニ照準即今取調中ニ候處願出ノ趣ニヨリ難決件々左
ニ相伺候也

第一條

一 壁ハ甲村ノ小學校ハ舊陣屋跡建物共悉皆願出此地坪
千五百坪ノ内五百坪ハ成規ノ通御下附殘千坪ヲ同小
學校持用上ニテ相當代價ヲ以御拂下ノ儀區戸長ヨリ

學制

伺出右ハ元一郎ノ地ニテ現場引合方モ不都合ニ付空地ノ場所ヘハ桑茶杯植付追々授産ノ術ヲモ爲覺候様盡力致シ度旨其實無餘儀請願ノ分ハ殘地拂下ノ積取調候テ可然哉

第二條

一乙村ハ二百五十坪ノ地ヲ二个所合併丙丁ハ丙村地内百五十坪ノ場所三个所合シテ四百五十坪是ヲ將來ノ備ニ設置追々盛大相成候ニ隨ヒ該地相應ノ業體ヲモ爲覺候様致度願出候類往々有之元ヨリ外見込ノ場所モ無之少歩ノ場所一个所ニテハ即今入校ノ生徒スラ居餘リ增生徒ノ居所無之事實無相違分ハ二个所三个所ニ相成候下モ成規ノ五百坪迄ハ取調不苦候哉

第三條

一三小學區ヲ聯テ一校ヲ設サレハ各小學區可相定地無之邊鄙ノ實況不得止場所ハ矢張一小學區五百坪ノ割ニテ千五百坪附與ノ積取調候テ可然哉

(指令)

書面伺ノ趣左ノ通可相心得事

- 一初个條 舊陣屋跡建物並地所五百坪迄ハ無代可下渡候得共殘地拂下ノ儀ハ一郎地ニテ實際難引分場所ニ候ハ、實地ノ繪圖面及ヒ相當代價等取調可伺出事
- 一第二个條 小學校地所ハ即今建設ノ場所ニ限リ可下渡管ニ付將來ノ備ニ設置候爲メ民有地トシテ下渡候儀ハ難聞届且相當地所無之二个所ニ設立候儀ハ本年

太政官四十六號布達ノ通相心得委詳取調可伺出事
一第三个條 聯區ハ一時不得止設立候儀ニ付制限ノ坪
敷ニ不拘可成減縮致シ敷場敷地其他必用ノ地所丈撰
擇ノ上伺出候儀ト可相心得事

第八條

明治八年八月十三日高
知縣ヨリ内務省ヘ伺

中小學校未タ建設無之地ニシ一時創建難相調地ハ中學
ハ千坪小學ハ五百坪宛官有地ヨリ可下渡公有地ニテ相
當ノ个所無之向ハ有稅地ノ内相當代價ヲ以可下渡旨太
政官第三百三十一號御布達有之當縣ノ儀ハ專ラ山海ニ對
峙シ右御布達ニヨリ願出候个所ノ中實地創建可致見込
ノ地更ニ無之候ヨリ唯木材ノミニ注目シ險巖絕壁ノ土

地ヲモ願出候區々モ不勝右ハ名實相違不都合ニハ候得
共僻陬ノ貧民村内ノ自力ヲ以建校ノ儀難相調遷延今日
ニ至リ事情無餘儀次第ニ付譬ハ甲ノ官有地或ハ有稅地
ヲ願受置土地商議ノ上再乙ノ私有地ヘ致建立甲ノ公有
地或ハ有稅地ヲハ村内ニ於テ持主相定メ置其上ハ木代
或ハ作德料等ヲ以將來其土地ノ學費ニ充候儀ハ聞届不
苦候ヤ相伺候也

(指令)

書面學校ヘ下渡地ノ儀ハ該學校敷地トシテ下渡候旨意
ニ付甲地ヲ以テ乙地ニ交換致候儀ハ難聞届候尤官有ノ
田畑山林等學資ニ充度情願モ有之候ハ、差支リ無之場
所ニ限リ相當代價ヲ以テ可拂下候條實地取調繪圖面相

學制

副可伺出候事

第九條

明治八年九月十二日
佐賀縣内務省へ伺

一 小學校設立スヘキ地所ハ官地ヲ以テ御下渡可相成々
 規ノ處方今草創ノ際管内各區ヨリ學校設立地所下渡
 ノ儀頻々願出間ニハ官民ニ於テ指支ノ場所モ可有之
 實地調査ノ上ナラテハ上申候モ不都合ニ付租稅官員
 ヲ派出シ取纏ノ上上申候テ可然候得共草創ノ際御指
 揮ヲ仰キ居候テハ機會ヲ失シ可申實地調査ノ上指支
 無之地ト見認メ候上ハ先ツ貸渡學校取設置追テ上申
 仕度候

一 學校設立ノ爲メ可下渡地所ニ有之竹木處分ノ成規無

之候處如何可相心得ヤ尤方今學事擴張ノ際借宅或ハ
 堂宮ヲ以テ之ニ充ツトイヘトモ又多少ノ修繕等モ有
 之加之書籍器械購求等當民力耗弊其實堪カヤ村落
 モ不勘特別ヲ以テ校舍入用ノ木竹ハ無代價ニテ御下
 渡相成度候

一同上ノ地所ニ有之木竹等校舍營繕不用ノ分ハ公ノ入
 札キ以拂下ケ候様可仕ヤ

右件々相伺候也

(指令)

書面伺ノ趣ハ左ノ通可相心得事

第一條 伺ノ趣難附屬尤取纏申出候ニ不及其都度經伺
 ノ上下渡候儀ト可相心得事

學制

第二條 下渡候地内ニ有之立竹木ハ校舍於テ相望候ハ、相當代價ヲ以拂下ノ積取調伺出候儀ト可相心得事
第三條 伺ノ通取調可伺出事

第十條

明治八年七月七日愛媛縣ヨリ内務省へ伺

第一條

一學校敷地ノ儀現今設立ノ目的有之向ハ現今直ニ被下渡後來設立ノ目的アル分ハ官地ニ据置後來設立ノ節被下渡候儀ト相心得候處管下新居郡西條舊陣屋越智郡今治舊縣廳喜多郡大洲元神山縣出張所宇和郡宇和島元木縣出張所ノ如キ後來中學設立ノ見込ヲ以地所成規ノ分ハ無代價建物ハ低價御拂下ノ儀願出ノ向也

有之候處現今設立ノ見込無之者ニ付地所ハ官地ニ据置ノ積ニ候得共右建物ノ儀ハ即今相當代價ヲ以御拂下可相成ヤ又ハ官舎ニ据置後來設立ノ節御拂下可相成ヤ將テ都合ニ寄相當税金相納拜借御聞届可相成ヤ

第二條

一 小學校敷地ノ儀舊藩々城下及其他人戸稠密ノ場所及犬牙接續ノ地ハ數區ヲ聯合シ學校設立致度趣ヲ以小區毎五百坪ノ積ヲ以敷地御下渡願出候向有之候處本年太政官第四十六號御布達ニ土地ノ便宜ト教育ノ都合ニ寄リ一校ヲ二校ニ分設候向其敷地二百五十坪ニテ不足候節ハ四百坪マテハ御下渡相成候趣ニ候處前件願意ノ如キハ全ク土地ノ便宜教育ノ都合ニヨリ

候儀ヨハ候得共彼ハ一校ヲ二校ニ分設シ是ハ二校ヲ
 一校ニ合併スルノ趣意ニシテ處置方反對致シ候儀ヨ
 ハ候得共聯區設立ノ學校ニアツテハ生徒素ヨリ不少
 隨テ家屋及遊步場等モ亦濶大ナラサルヘカラス就テ
 ハ學區每五百坪以內又ハ四百坪以內ノ積ヲ以御渡可
 相成ヤ

第三條

一學區内ニ官有無稅地有之學校適當ノ場所タリト云ヒ
 其他狹小比鄰ハ家屋櫛比相隣フヘキ餘地無之又ハ學
 區内ノ無稅地其中央ニアラスシテ隔絶ノ地ニアル向
 等其地ヲ以テ人民所有地ノ内學校適當ノ場所ト交換
 スル等ノ儀難相成ヤ

但本文狹小ノ官有地及隔絶ノ場所等學校へ拜借又
 ハ御拂下願出候ハ、御開届可相成ヤ

(指令)

書面伺ノ件々左ノ通可相心得事

第一條

一舊陣屋舊縣廳元出張所等ノ如キ後來必ス中學校設立
 ノ見込有之分ハ地所建物トモ相當拜借料相納メ貸渡
 候儀ト相心得貸渡及設立ノ際ハ更ニ可申出候事

第二條

一聯區學校開設ノ儀ハ一時不得止假設ノ儀ニ有之敢テ
 滿制限ノ坪數ヲ相渡スニ不及他日獨立ノ際各滿制限
 ノ地ヲ下渡候便宜ニ可有之尤廣大ノ地ニシテ實際

難引裂且永遠聯區ノ場所ハ一小學區五百坪ノ割ヲ以
テ一ト場所ニテ下ケ渡候積取調候トモ不苦候條詳細
取調繪圖面相副可伺出事

第三條

一無稅官有地ヲ以テ人民所有地ト交換候儀ハ難聞屆候
事

但狹小ノ官有地及遠隔ノ場所等學田トシ需用ノ分
ハ相當代價ヲ以拂下相成候儀ト可相心得事

第十一條

明治八年十月十五日小
田縣ヨリ內務省ヘ伺

福山縣舊知事從五位阿部正桓廢官出京ノ際同所居住ノ
士族ヘ救助金若干ヲ委托シ教育筋ニ供スヘキノ懇諭セ

有之後亦空シク消散候テハ遺憾ノ至ニ付去壬申年ヨリ
有志ノ者協力右金ヲ基礎トシ會社組立資學社ト稱シ將
來中學校資本一途ニ充ン爲メ專ラ貸附致居候處方法確
定不致ヨリ往々失誤有之ニ因リ自今貸付抵當其他計算
向等ニ至迄主務官務官員ノ親シク管理點檢アラソトテ
社中一同ヨリ及惴願候處官金ニ無之以上ハ公然管涉難
爲致哉又ハ爲致不苦哉相伺候也

(指令)

書面ノ趣學務課ニ於テ此等ノ事業ヲ監督致候ハ格別ニ
候得共私社ノ學資金ヲ貸付ケ抵當物ヲ取調ヘ其他算計
等ノ事務迄親理候儀ハ不相成候事

第十二條

學制

明治八年九月廿八日 濱田縣ヨリ内務省へ伺

管下那賀郡長濱村天満宮境内段別壹反壹畝歩ノ内

一地坪九拾九坪 長濱村小學校敷地拜借願

同郡日脚村八幡宮境内段別八反四畝九歩ノ内

一地坪百九十五坪 日脚村右同斷

右兩村ノ儀人民協力小學校新築ノ際家屋隣接ニ於テ敷

地無之ニ付書面ノ地坪拜借願出事情無餘儀相聞へ且ツ

尋常人家ニ異リ候間取調候處社地ノ風致ヲ不損場所ニ

付御開届相成度圖面相添相伺候也 除之

(指令)

書面神社境内ヲ其儘小學校敷地ニ所用致シ候儀ハ不都

合ニ付將來上地差岡ナキ場所ニ候得ハ右敷地丈ケ上地

セシメ改メテ學校敷地ニ附與ノ等付取調可伺事

第十三條

明治八年十月三十日 青森縣ヨリ内務省へ伺

津輕郡弘前白銀町一番地

一地坪千九百九拾三坪九合 舊學校敷地

右地坪ノ内 建築家 一棟二百三十九坪

右白銀町一番地ノ儀ハ一小學區ヨリ五小學區ノ中少シ

ク北方ニ偏スト雖モ通衢便宜ノ地且弘前ハ第十五中學

區本部ニ付將來中學ヲ設置シ小學ノ儀モ現今設立ノ外

ニ一校ヲ建設仕度依テ中學校敷地御成規外九百十三坪

九合ニ當リ二箇ノ小學地トシテ御下渡被下度旨學區取

締ヨリ申出候ニ付調査候處實際相違無之候間願ノ通御

學制

下渡建物ノ儀ニ是迄學校ニ貸渡置候ニ付最前御指令ノ
通無代價ニテ御下渡相成度別紙圖面差添相伺候也並別紙
面除之

(指令)

書面ニ小學校敷地ノ儀ハ可下渡候得共中學校敷地ノ儀
他年開設ノ見込ヲ以テ豫メ下渡ノ儀ハ難聞届候條建物
ノ都合ニ據リ實際難引裂儀ニ候ハ、小學校建設坪制限
外ハ相當代價ヲ以テ拂下候歟聯區設置候歟適宜見込相
立尙可申出事

第十四條

明治八年十一月二日
賀縣ヨリ内務省ヘ伺
教

官越前國足羽郡東郷村
山字ノヨス谷ノ内

東郷村

中脇村

橡泉村

一地坪五百坪
同國郡中脇村内
山字ヲサカ道ノ内
一地坪五百坪
同國郡橡泉村内
山字同葉山ノ内
一地坪五百坪
右ハ越前國足羽郡東郷村外二个村ヨリ其村地官山ノ内
前記ノ通學校敷地ニ下渡ノ儀願出候右ハ兩山共既ニ昨
七年十一月中地理寮官員實地檢査ノ上存置ノ部ニ相定
メ候モ、ノニテ尙本年御省乙第八十三號御達ノ次第ニ有
之候得共可相成ハ特別ノ譯ヲ以願ノ通御聞届相成度圖
面相添相伺候也除之

(指令)

學制

書面學校敷地トシテ一等官林ヲ下渡ノ儀ハ難聞屆候荒
蕪地并三等官林ノ内便宜ノ場所所有之候ハ、相撰更ニ可
伺出候事

第十五條

明治八年十一月山梨
縣ヨリ内務省へ伺

山梨郡第一區甲府一番組錦町ノ内

一地坪二千三百七十二坪五合

内

五百坪

當四月中無代御下附伺濟地

八百四十八坪五合

當四月中伺濟御拂下ケ地

四百拾四坪

當十月中伺濟無代御下附地

五百拾一坪

民有地買上ケ地

右ハ師範學校建設ノ爲メ前書ノ通無代御下附或御拂下

中立ノ度々民有地第二種ニ編入ノ積ヲ以伺出候處全体
右師範學校ノ儀ハ御委托金及ヒ縣稅金_{舊賦}其他人民獻金
等ヲ以費用ヲ補ヒ建設維持致シ事務一切於縣廳所轄候
ニ付本年乙第百十四號御達ニ準シ官有地第四種ニ編入
可然哉

同郡同所

民有地買上ケ地

一地坪千四拾六坪

右隣接地

同郡同所三番組相生町ノ内

右ハ病院建設ノ爲縣稅金_{舊賦}并ニ人民獻金ヲ以買上ケ當
時建築中ニ有之維持ノ儀モ同様縣稅ニ獻金等ヲ加補シ

事務一切於縣廳所轄致シ候ニ付本年乙第百拾四號御達
ニ準シ官有地第四種ニ編入可然哉

右兩條相伺候也

(指令)

書面二个條共同ノ通

第十六條

明治八年九月二十二日
東京府ヨリ内務省へ伺

府下五大區三小區ノ内小學校建設可致處該區ノ儀ハ人
戸稠密ニシテ空間ノ地無之ニ付区内花岡町火除地ノ内
別紙圖面ノ通五百六拾壹坪拜借願出候處同所ノ儀ハ冬
春ノ際西北風烈敷外神田ヨリ出火候節ハ京橋筋濱町邊
佃島迄及延燒候儀度々有之候ニ付去明治三年中同所燒
失跡町家取扱凡九千坪餘ノ地ヲシテ火除地ニ仕成メ鎮
火社等取設有之然ルニ今般前書戸長其外申立ノ通普通

常住ノ建家トモ違ヒ塗屋學舎取設候分ハ火除ノ旨趣ニ
相悖リ候譯ニモ無之事實不得已儀ニ付願ノ通御貸渡相
成度就テハ地所名稱官有地第三種ノ部ニ火除地等ノ明
文無之候得共道路堤防等ニ齊シキ地所ニ付當火除地ハ
勿論各所廣場ノ分モ同様第三種ニ組込相成候方ト存候
尙校地ノ儀御許可相成候上ハ是又第三種但書ノ部分ニ
組込相當ノ借地料退テ取調可申出此段相伺候也別紙并
之

(指令)

書面ノ趣ハ十一月十二日及十四日付伺書へ及指令候通
可相心得事

第十七條

學制

明治八年十一月四日新
潟縣ヨリ内務省へ伺

七年太政官第百卅壹號御達ニ依リ荒蕪不毛ノ地夫々經
伺ノ上管下中小學校敷地ニ下渡シ既ニ學校設置ニ及置
候分區畫等ノ都合ニヨリ進々其校舍ノ位置偏倚不都合
ヲ生シ何分其儘難差置場所モ有之相對テ以相當ノ私有
地ト交換致度願出候向モ有之右ハ最初下渡候地所賣却
等ノ譯ニ無之只同反別ノ地ヲ以之ニ換へ換地ヲ以永ク
拜賜ノ校地ト爲相定候筋ニ付都テ尋常ノ私有地讓渡同
機關ノ趣縣廳限リ聞届地券狀書替名稱區別相改不苦筋
トハ存候へトモ其都度伺出候儀ニ可有之哉相伺候也

(指令)

書面ノ趣既ニ下渡タル地所へ學校建設ノ後都合ニヨリ

他ノ民有地ト交換ノ儀ハ其廳限リ聞届其旨可申出事

第十八條

明治八年十月二十八日
東京府ヨリ内務省へ伺

府下淺草吉野町六十三番地盲人相澤元庭外二名誠治學
校設立ノ儀及出願相聞候處誠治營業ノモノヲ集合シ其
實ヲ研究セントノ願意尤ニ相聞候得共資金貸附ノ利子
ヲ以テ學校保護ノ方法ハ往々弊ヲ生シ可申歟且ツ誠治
ノ儀ハ醫制第三十二條ノ趣モ有之候間御省衛生局へ問
合候末文部省へ相伺候處右ハ全ク誠治營業ノ徒ヲ集合
シ其術ヲ練磨セシメ候迄ノ結構ニテ學校トハ難看倣同
省管理ノ事項ニ無之旨申越候就テハ誠治學校ノ名稱ハ
難聞届候へ共其徒ヲ集メ其術ヲ磨キ候儀ハ方今官ニ於

學制

候處道路ノ便否等實測圖面相添更ニ可伺出旨去月廿二日御指令有之ニ付取調候處右地所ノ儀ハ實地景況別紙圖面ノ通ニテ學校建築ニ付テハ尤適宜ノ地ニ有之候ニ付前書内譯墨書ノ地所御下渡相願朱書ノ地ハ地主ニ相對テ以圖面張紙ノ通地所交換學校建築及新道相開キ申度尤新道潰地ノ儀ハ官有地第三種ニ組入ノ地税金收入方ハ追テ大藏省ニ相伺可申別紙圖面相添相伺候也除圖面

(指令)

書面學校敷地ノ名義ヲ以民有地ト交換ノ爲メ付與候儀ハ難相成次第ニ候得共一小學區内ノ儀ニモ有之且地形ニ於テ無餘儀相見候ニ付伺ノ通開屆候條學校敷地ノ儀ハ民有地第二種交換私有地ノ儀ハ同第一種ニ組入成規

ニ照準可取計其他伺ノ通

第二十條

明治九年二月十四日愛知縣内務省ニ伺

三河國八名郡萩平村龍泉寺上地

字城脇反別九反三畝二步ノ内第九中學區内第九十四番小學

一官有地五百坪 無稅 校地返上官有地据置相願候分

右小學校敷地下渡ノ儀各村一同處分方昨八年八月十二

日上申候處御聞届相成候ニ付テハ家作創建可致ノ處資

金ノ方法相立兼差向新築行届不申地租上納差支候得共

後來設立ノ目途ニ付官有地ニ据置ノ儀申出候間及調査

候處申立ノ趣相違無之依テハ昨八年御省乙第六十九號

御達ニ照準右地所返上爲致官有地ニ据置ノ積處分可致

哉相伺候也

學制

テ差圖不及旨相違可然哉書類相添相伺候也 別紙書類除之

伺ノ通

第十九條

明治八年十月三十一日
岐阜縣ヨリ内務省へ伺

安八郡大垣町地内元三ノ九太鼓門跡并堀際空地
一地坪五百坪

内譯

貳百貳拾貳坪五合 別紙圖面甲乙丙印
太鼓門跡并地續

是ハ學校地ニ御下渡相願候分

百貳拾六坪九合 同丁印還祿者へ拂下相成候地所

是ハ地主へ相對テ以御下渡ノ地所ト替地可致分

百五坪九合 右同斷戊己印堀

是ハ右同斷

小以四百五拾五坪三合 學校建築可致分

貳拾貳坪五合 右同斷庚印ノ地

是ハ右同斷新道相開候分

四拾五坪 右同斷辛印堀

是ハ右同斷

小以六拾七坪五合 新道敷ニ可致分

貳百七拾七坪五合 圖面壬印堀際草生空地

是ハ學校地ニ御下渡相願前書朱書个所ト替地ニ致候分

右ハ管下美濃國安八郡大垣町學校敷地御下渡ノ儀相伺

學制

候處道路ノ便否等實測圖面相添更ニ可伺出旨去月廿二日御指令有之ニ付取調候處右地所ノ儀ハ實地景況別紙圖面ノ通ニテ學校建築ニ付テハ尤適宜ノ地ニ有之候ニ付前書内譯墨書ノ地所御下渡相願朱書ノ地ハ地主ニ相對テ以圖面張紙ノ通地所交換學校建築及新道相開キ申度尤新道潰地ノ儀ハ官有地第三種ニ組入ノ地税金收入方ハ追テ大藏省ニ相伺可申別紙圖面相添相伺候也除圖面

(指令)

書面學校敷地ノ名義ヲ以民有地ト交換ノ爲メ付與候儀ハ難相成次第ニ候得共一小學區内ノ儀ニモ有之且地形ニ於テ無餘儀相見候ニ付伺ノ通聞届候條學校敷地ノ儀ハ民有地第二種交換私有地ノ儀ハ同第一種ニ組入成規

ニ照準可取計其他伺ノ通

第二十條

明治九年二月十四日愛知縣令
 三河國八名郡荻原村龍泉寺上地
 字城脇反別九反三畝二步ノ内

一官有地五百坪 無稅 第九中學區内第九十四番小學
 右小學校敷地下渡ノ儀各村一同處分方昨八年八月十二日
 日上申候處御聞届相成候ニ付テハ家作創建可致ノ處資
 金ノ方法相立兼差向新築行届不申地租上納差支候得共
 後來設立ノ目途ニ付官有地ニ据置ノ儀申出候間及調査
 候處中立ノ趣相違無之依テハ昨八年御省乙第六十九號
 御達ニ照準右地所返上爲致官有地ニ据置ノ積處分可致
 哉相伺候也

學制

(指令)

書面ノ趣開届昨八年九月廿二日指令ノ儀ハ取消候條右
敷地ハ學校豫備地トシテ官有地ニ据置可申事

第二十一條

明治九年四月十五日石
川縣ヨリ内務省へ伺

一地坪千坪

内

五百坪

此沽券金一圓十五錢五厘

是ハ師範學校用地トシテ無代價御下渡ノ儀昨
八年中相伺候處同年五月廿日御開届相成沽券
稅收入ノ分

五百坪

此拜借料一ケ年金一圓五錢五厘

是ハ右同斷用地ニ拜借ノ儀前同様相伺候處御開
届尤拜借料取調可伺出旨御指令ニ付則取調八年
分ハ月割ヲ以七ケ月分六十七錢四厘九年ヨリハ
一ケ年分上納ノ積相伺候處本年二月廿八日御開
届ニ相成候分

右ハ管下越中國新川郡富山町字赤藏跡地書面千坪ノ内
五百坪ハ師範學校用地トシテ無代價御下渡殘五百坪ハ
拜借夫々収稅ノ儀相伺候御許可相成候得共右學校ノ儀
ハ元來御委托金ヲ以設立事務一切縣廳ニ於テ所轄イタ
シ候儀ニ有之然ル處御省日誌五十九號山梨縣伺御指令

學制

ニ準據候得ハ同一ノ儀ニ付前件御下渡地并拜借地トモ
官有地第四種へ組入レ當九年ヨリ沽券稅拜借地稅トモ
免許被成下度相伺候也

(指令)

書面ノ趣山梨縣伺ノ儀ハ縣稅并獻金ヲ以取立候儀ニテ
委託金ノミニテ取立候儀ニ候得ハ昨八年當省乙第四百
十四號達ニ準據候儀ハ不相成儀ト可相心得事

第廿二條

明治九年八月廿九日新
潟縣ヨリ内務省へ伺

縣下小學ノ儀嘗テ文部省へ相届置候通小學區トナシ中
突便宜ノ地ヲ撰ンテ本校ヲ距ル大凡貳拾町以外來往不
便ノ地ヨハ各附屬校ヲ置キ本校相扶ケ彼是並進ヲ盡リ

來リ候處去七年太政官第百三拾壹號八年第四拾六號公
達ニ基キ四百坪以内ノ地ヲ成規ニ據リ貳ヶ所下渡來候
得共既ニ貳ヶ所ニテ定限ノ坪數ヲ付與スル以上ハ其他
現ニ公立學校アリ又相當ノ官有地アルモ付與スルヲ得
サルコ付出願ノ遲速ニヨリ大ニ幸不幸ヲ生シ公平均一
ナラサルコ付小學區ニ拘ハラズ全ク公立學校毎ニ四百
坪以内ノ地ヲ下渡相成候様致度萬一御准允不相成儀ニ
候ハ、三個校以上設立スル區内ハ其學校ノ數ニ應シ何
ヶ所ニテモ合算八百坪ヲ以テ極度トナシ實際相當ノ官
有地有之分ハ下渡候様致度相伺候也

(指令)

書面ノ趣ハ文部省許可ノ上公立ノ分校新設致シ候儀ニ

候得ハ校數ニ不拘昨八年太政官第四十六號達ニ照一
校四百坪以内下渡方取計候儀ト可相心得事

但二校以上ノ分ハ其都度可伺出事

第二十三條

明治九年九月廿三日高
知縣ヨリ内務省ヘ伺

第八大區三小區

一官有地第四種病院地内舊濕地共 貳千三百九拾四坪
五步七厘

但濕地ノ分ハ半ハ填塞候事

一公園地 貳千貳百四十三坪五步

但公園内從來不用ノ分

當縣從來陶治學校設置ノ處場所狹隘ニ付今般更ニ右

地所へ縣立師範學校ヲ創建シ附屬小學校女子師範學
校并藏書館植物園遊步場等差備候間圖面相添相伺候
也圖面
除之

(指令)

書面公園地區域内ヲ新ニ他へ使用候儀ハ一般難開届候
尤從前取建有之候病院敷地ノ内ヲ學校へ使用候分ハ不
苦候條尙取調可申出事

第二十四條

明治九年十月十九日長
野縣ヨリ内務省ヘ伺

管下小學保護金ノ儀明治六年以來舊高壹石ニ付金五錢
シ、各學區限リ課出セシメ其餘ハ專ラ區内有志者ノ寄
附金ヲ以テ保護致來リ生徒受業料ノ如キハ僻陬窮民多

學制

コ因リ大概之ヲ收メス可成丈ケ共有地又ハ共有金穀ヲ
 増殖シ基礎成立爲致度目途ニ有之候處當國ノ儀ハ養蠶
 ナ以テ第一ノ産業トシ全管ノ盛衰一ニ該業ノ如何ニ因
 レリ然ルニ連年蠶種及生絲ノ利益無之ノミナラス却テ
 之カ爲メ破産ニ至リ候者多ク旁有志寄附金年々校毎ニ
 變換ナ生シ其都度勸奨募金不致テハ差當リ保護ニ差廻
 キ隨テ學務繁劇ニ涉リ際限モ無之終ニハ教育ノ道ヲ壅
 塞スルノ慮ナキニアラス因テ今般舊筑摩縣廢合ノ際別
 紙ノ通り全管へ布達致度右ハ縣廳及管内公務上ニ相關
 ノ候モノニ無之各小學區限リ子弟ヲ教育スルノ費用ニ
 止リ候儀ニ付一般民費ノ制限ニ拘ハラヌ別途ノモノト
 看做當然ノ事ト相心得候得共爲念布達案相添相伺候也

別紙布達案

小學校資金常額左ノ通相心得各學區限可取扱候事

一條

公學校ノ費用ハ學齡ノ多寡或ハ教育ノ進否ニヨリ差
 等アルモノト雖モ現今ヲ以テ之ヲ量ルニ學齡百人以
 ノ内學區ニ於テハ必ス校費金貳百五拾圓ヲ通則トス
 一ノ學齡百人以外ヲ教育スル學校ハ一人毎ニ金貳圓
 ナ増加ニ通算シテ之ヲ校費ニ備フヘシ

二條

校費ハ其學校資本金ノ即納獻金等全ク該校ノ利子有志
 寄附金年々利子ノ所ニ收領シ元金ハノ利子地價ノ課
 出金受業料及附属ノ收益等ヲ合算シ猶不足ナルモハ

因ヨリ該區ニ於テ支消スヘキハ當然ノ責タルヲ以テ
必ス學齡ニ比較シ地價若クハ戸ヨリ課出スヘシ

三條

地價若クハ戸ノ課出金並有志寄附金ノ利子ハ小區扱
所ニ於テ一般民費取立ノ法ト同シク年中四度ニ取經
メ之ヲ學校ニ渡シ受取証ヲ取ヘシ

但山金延滞スル者ハ相當ノ利子ヲ加ヘ取立ヘシ

四條

生徒受業料ハ一个月五錢ヨリ少カラス拾錢ヨリ多カ
ラス必ス之ヲ納メシムヘシ其集金ハ學校收領簿ニ割
印シ受取証ヲ渡スヘシ
但貧者ノ子弟ハ此限ニアラス

五條

學校所有ノ田畑山林等ノ收益ハ取立ノ都度學校收領
簿ニ割印シ受取証ヲ渡スヘシ其米穀樹木等ヲ賣却ス
ルキハ必ス投票ヲ以テスヘシ
但荒凶等ニヨリ米穀收額ヲ減スルキハ戸長之ヲ定
ムヘシ

(指令)

書面伺ノ趣ハ各校設立ノ際保護方法ノ儀ハ最初ヨリ人
民相互ニ條約モ可有之管ニ付於其應目今更ニ方法ヲ設
ケ際々相示シ候儀ハ不都合ニ有之候條區戸長以下區内
協議ノ上實際公平ニ基キ其縣限リ相定候ハ不苦候事

第二十五條

學制

明治九年十二月二十七日
新潟縣内務省へ伺

公學校資本出金方ノ儀ニ付衆議ヲ以テ允當トスル所ト
 雖中ニハ無謂出金ヲ拒ミ或ハ金額ノ多寡ヲ論シテ肯
 テ承引セサル輩ハ學制第九拾八章但書ノ旨趣ニ準シ便
 宜施行不苦哉ノ旨去八月十七日相伺候處同十一月七日
 御指令ニ右等ノ者有之節ハ精々懇諭ヲ盡シ盛業ノ目途
 相立候様可取計ト有之然ルニ右資本金ノ儀ニ付テハ過
 日來種々苦情申立候者有之仍テ資力ノ有無等詳細取調
 候處村民申立ノ通出金爲致相當ト見認候ニ付於本廳并
 警察出張所本人へ幾回トナシ反復開諭仕候得共到底頑
 強不率ニシテ毫モ悔悟ノ色不相見去トテ其儘差置候テハ
 先回申立候通已ニ出金ヲ諾スル者モ忽チ異議ヲ生シ瓦

解ニ歸スルノ勢ニ有之此上説諭ノ致方モ無之此際ニ於
 テハ只課賦ノ一法アルノミ而シテ其課賦ノ法ニ至リテ
 ハ又一般區入費ノ課賦法ヲ以テス可ラサル者アリ譬へ
 ハ商人ノ如キ所有ノ石高ハ無之ト雖也其有金ニ至テハ
 實ニ富足スル者アリ是等ノ如キハ區内人民ノ認テ以テ
 允當トナス所ヲ以テ出金爲致若シ肯セサルキハ其金額
 課賦出金爲致度モ此ノ如ク法ヲ設クルニ非レハ其
 區内ニ依テ到底學資ノ目途難相立候條前文ノ通御許可
 相成度相伺候也

(指令)

書面伺ノ趣ハ其區ノ精態ニヨリ衆議共同ヲ以テ釀金致
 候儀ニ付到底事理懇切ニ説諭イタシ協議相届候様可致

學制

事

但今後右等ノ儀警察官吏ニ於テ説諭不爲致儀ト可相心得事

第二章 官立師範學校生徒入學規則

第二十六條

明治八年十二月廿日 滋賀縣ヨリ内務省ヘ伺

管下滋賀郡第三區大津上堅田町舊郡山縣倉邸ヲ以師範學校設立ノ儀前伺ヘ御指令ノ趣ニテハ文部省委托金及ヒ人民寄附金等ヲ以設立候節ハ如何様ノ御處分ニ可相成哉一般公學ノ振合ヲ以五百坪以内ノ地所御下渡可相成筋ニ候哉又ハ縣税金ヲ以立校候節ハ如何様ノ御處分

可相成哉尤右倉庫ハ從前藩費ヲ以建築ノ分ニ付當今建物及地所共全ク官有ニ有之候此段御承知ノ上至急御指令被下度候也

前伺ヘ、指令

書面學校敷地ノ儀委托金及ヒ人民寄附金等適宜ヲ以開校致候分ニ有之候得ハ公立學校ニ付官有地ノ儘使用致候儀ハ難相成縣税金ヲ以取建候儀ニ候ハ、猶可及詮議候條右等及ヒ建物官民費ノ區別共今一應取調更ニ可相伺出候事

(指令)

書面師範學校敷地ノ儀ハ文部省委托金及ヒ人民寄附金等ヲ以設立スルモノハ一般ノ公學ニ準ヒ民有地ニ可取

官立師範學校生徒入學規則

調縣税金ヲ以設立候モ、候ハ、其敷地ハ官有地第四種ニ組入使用候儀ト相心得處分方可伺出事

第三章 牧羊場生徒入場規則

第二十七條

明治八年八月四日長崎縣ヨリ内務省へ伺

一 洋牝牛

一 頭

一 同牡牛

一 頭

右ハ於管下牧牛取開度勸業寮御取入ノ洋牛御下渡ノ儀先般相同候處飼養方並蕃殖法等取調可申出旨御指令有之即別紙ノ方法ヲ以取扱可申積糞脫漏ノ廉モ有之付御添削被下度且縣下ニテ從來和牛牧畜ノ儀現業取扱概

畧心得候者有之候得共洋牛飼養方ハ未熟ニ付自然不都合ヲ生候テハ今後蕃殖方ニモ差懸可申勸業寮牧養課生徒ノ内現業熟練ノ者一人凡三月間爲教授御差出被下度洋牛御下渡ノ上ハ社則等精密取調追テ差出置蕃殖ノ次第ハ年々御届可仕別紙蕃殖方法書相添相同候也別紙除之

(指令)

書面願ノ趣聞届洋牛牝牡各一頭貸下候條預リ証書ヲ以內藤新宿勸業寮出張所へ受取方可申出候且牧畜生徒ノ儀ハ未タ卒業ノ者無之ニ付勸業寮牧畜掛官員ノ内差遣候條於其縣ニ精々法意永遠維持ノ方法取設蕃殖ノ景況等年々可届出事但結社ノ儀ハ社則ヲ以別段可申出儀ト相心得事

牧羊場生徒入場規則

第二十八條

明治八年九月十四日 敕
賀縣ヨリ内務省へ伺

御省乙第百十號御達牧羊生徒徵集ノ儀ニ付左ノ件々相
伺候也

一將來牧羊可相開見込有之府縣トハ府縣ノ見込ノミノ
儀ニ候ヤ又ハ人民一己ノ見込ヲ以入場願出候共御差
許相成候ヤ

一府縣ヨリ差出候生徒卒業ノ上ハ該府縣ニテ開場着手
ノ心得ニテ可然ヤ

一生徒ノ事業才力ノ進歩ニヨリ各府縣へ頒布シ月給ヲ
與フ云々右ハ其才幹ニ寄リ臨時ノ御採擇ハ勿論候得
共都テ當初差出候該縣へ御配布相成候ヤ

一生徒ハ一縣内凡何名ト云定度有之候ヤ又ハ一己ノ見
込ヲ以願出候向ハ定員外ニテモ御差許相成候ヤ

(指令)

書面伺ノ趣第一條ハ將來牧羊可相開見込有之府縣ノミ
ニテ人民一己ノ見込ヲ以入場願出候儀ハ難差許第二條
第三條ハ伺ノ通第四條ハ當省乙第百二十一號達ノ通ニ
テ定限外ハ入場難差許儀ト可相心得事

第二十九條

明治八年十月九日 滋
賀縣ヨリ内務省へ伺

御省乙第百十號ヲ以牧羊生徒徵集ニ付入場規則御達相
成猶又乙第百廿一號ヲ以一府縣一名ツ、取調勸業寮へ
可申出旨御達ニ付人撰ノ上一名ノ儀ハ不日可申立其餘

牧羊場生徒入場規則

志願ノ生徒モ往々有之ニ付規則第一條ニ適當仕候上ハ
追々申立候ヲモ不苦候哉相伺候也

(指令)

書面ノ趣ハ當省乙第百二十一號達ノ通一名ノ外ハ更ニ
何分ノ儀相達候迄ハ入場難差許儀ト可相心得事

第三十條

明治八年十月五日宮
城縣ヨリ内務省へ伺

管下陸前國壯鹿郡大原濱農長沼平治儀收場相設候ニ付
テハ同郡寄磯濱外二个濱官林九拾七町四反七畝步御下
渡被下候得ハ村持山四十三町六反一畝步合總反別百四
十一町八畝步ノ地別紙圖面ノ通場所取開キ外廻リ自費
ヲ以垣堤築立牛馬合併收養仕度旨願出候處右ハ漸次成

功可相成場既ニ付種牛ノ儀ハ先以十五頭産馬資本金ノ
内ヲ以買入下渡別紙方法書ノ趣ヲ以施行仕度尤官林ノ
儀入札ヲ以申談候ヲモ外望人モ無之場所且雜木立等ニ
テ格別良木等モ無之同人願立ノ代價不相當ニモ不相見
ニ付御拂下可相成哉若シ相成ラス候ハ、於本人伐木等
ノ趣意ニ無之收場ノ事ニ付拜借地ニテモ差支無之
依テ御拂下并代價調書圖面相添相伺候也願書并圖
面除之

(指令)

書面收牛場ノ爲メ官林拂下ハ難聞届貸渡並ニ方法書ノ趣
ハ聞届候條相當借地料取調且年季ヲ取極メ尙可伺出事
但存置樹ハ能シ保護シ牧畜ノ爲メ立木伐採ヲ要候場
所ハ立木ノニ拂下ノ積ヲ以テ目通寸尺并相當代價取

牧羊場生徒入場規則

調更ニ可伺出尤方法書中總テ税名ヲ廢シ最前及指令
置候産馬仕法金一同收畜仕法金ノ名義ヲ以收入致シ
候儀ト相心得淨寫壹通勸業寮ニ可差出事

收牛方法書節別紙

第一條

一 牧ノ場儀志願人長沼平治見込ノ官山持山合并外廻
垣堤築立トモ同人自費取開可申付事

第二條

一 種牛ノ儀ハ産馬資本金ヲ以先以牝牛拾五頭買入可
下渡事

第三條

一 牧場取締并牛取扱ノ儀長沼平治ニ世話役申付諸事

可爲取扱事

第四條

一 牧場ニ於テ出生牛有之分其都度世話役ヨリ村吏ニ
届出村吏検査ノ上届書取廻置年々六月中縣廳ニ可
差出事

第五條

一 本年出生牛ハ翌年九月掛官員巡回市場ニ爲牽出糶
賣可致事

但雜稅掛ノ内産馬掛兼務爲取扱候事

第六條

一 牛賣代金ノ内三分ハ牛稅取立殘七分ハ世話役一ケ
年入費ト看做シ可給事

但馬産金同様取扱候事

第七條

一 牧場内へ自身買入牛ヨリ産スル所ノモノ賣買ノ節
糶直段ノ壹分五釐牛産金取立可申事

但前同斷

第八條

一 二歳牛市場ニ於テ賣買ノ節手数料トシテ賣代金ノ
内牛稅ヲ除ノ外牛主ヨリ金一圓ニ付金壹錢九厘ツ
取立可申事

但前同斷

第九條

一 牧牛掛俸給ノ儀ハ益金ノ内ヨリ適宜給與ノ事

但牧牛掛ハ村吏ニシテ俸給ハ産馬掛村吏同様給
與ノ事

第四章 醫術開業試験手續

第三十一條

明治八年六月白川
縣ヨリ内務省へ伺

本年三月中新ニ醫術開業ヲ願フ者試業ヲ遂ラシ免狀御
授與可相成旨三府へ御達相成候段文部省報告第十一號
御頒布相成候ニ付追々各縣へモ御施行可相成儀ト想像
致候處管下漢醫江村萬春外八名ヨリ別紙ノ通願出候ニ
付相伺候也 別紙

(指令)

醫術開業試験手續

書面本年三月文部省第十一號報告ノ儀ハ今後新ニ醫術
開業致候者ハ一般ニ試業ヲ選候儀ニテ追々各縣ヘモ擴
及可致候條後進就學ノ者ヲシテ將來ノ方向ヲ誤ラシメ
サル様厚ク説諭可相加事

別紙

文部省報告第十一號明治八年三月三府へ御布達ノ趣
ヲ拜觀スルニ試業科目甲乙丙ノ三條ハ西洋醫流ニ非
カレハ學習セサル所ナレハ西洋醫流ノミヘノ報告トハ
存候得共自今新ニ開業ヲ請フ者ト有之然レハ從來ノ
漢醫子弟相續ノ節新ニ開業ヲ請フ時ハ試業科目ニ涉
ラサルヲ以廢棄セラル、御旨趣ニ候ヤ竊ニ惟ルニ醫
術ハ專ラ疾病ヲ救治スルニ在リ故ニ辨論精微ヲ究ム

ト雖治療ノ際實効ヲ得サレハ空論虛説トス今漢醫ト
洋醫ト其實際ノ治療ヲ通觀スルニ西洋ノ良醫本縣及
長崎等ニテ治療スル者少カラスト雖萬舉萬全ノ功ナ
シ本縣良ト稱セラル、者ノ治療スル所モ亦百發百中
ノ驗ヲ見ス然ルニソノ共ニ良ト稱セラル、者ハ各自
專長スル所アルナリ凡事物ニ短長アルハ古今ノ常理
ナリ然則舊來ノ漢醫ト新規ノ洋醫ト互ニ並立シ醫家
萬民ノ向背信疑ニ自由ノ權ヲ失ハサラシメハ國家ノ
大益ト存候只一流ヲノミ誘掖教導セラル、ハ偏頗束
縛ヲ免レヌ方今民ニ自由ノ權ヲ許サレタル御旨趣ニ
阻礙スルカ又別ニ公平正大ノ説ヲ主張シ漢洋折衷ト
唱ル者アリ而折衷ト云ハ超凡ノ者ニ非サレハ能ハサ

ルナリ故ニ洋方ヲ信スル醫ハ新法ヲ修メ漢方ヲ信スル醫ハ舊法ヲ修メ互ニ其術ヲ勉勵セハ自カラ熟練ノ域ニ進歩シ而後始メテ彼此較量長短取捨醫術ノ大成ニ至ルヘシ朝廷既ニ民ノ束縛ヲトキ又自由ノ權ヲ與フヘシ今日獨家ニミ偏頗束縛ノ說ヲ主張セラル、ノ理アラシヤ雖然御布令報告等ニ新故並立ノ明諭ナシ試業ノ科目ハ西洋一偏ノミヲ揭示セラル、トキハ醫俗共ニ西洋者流ヲ以テ束縛セラル、儀ト存候也前議萬一御採用有之候ハ、何卒新故並立ノ明諭ヲ更ニ報告セラシ益ニ朝廷公平正大ノ御新政ヲ感戴悅服各自修業仕度一同宿志陳進候也

第三十二條

取明 治八年十一月十日鳥

醫師開業ノ者試驗法御頒布マテ假科目ヲ以試驗差支無之分ハ從前ノ通取扱候段去月十七日付庶第十三號ヲ以申上置候處問ニハ開業出願モ不致猥リニ醫師ノ名ヲ冒シ醫療候者往々有之不都合ノ儀ニ付醫業名簿上顯然登錄ノ者ニ醫業證御下渡可相成哉又ハ當縣限製作相渡可申哉相伺候也

(指令)

書面伺醫業ノ證書ハ當分其縣限リ相渡取締可致候事

第三十三條

明治九年一月廿九日宮

醫師開業試驗方本年御省乙第五號ヲ以御達有之候ニ付

醫術開業試驗手續

左ノ條々相伺候

第一條

一 試驗人ノ儀管下共立病院醫員中目齊石田眞儀ハ獨乙
人ホフマン氏其外ハ隨從醫學研究致シ治術ニ相應出
來候間縣官立會同人ニ試驗爲致可然哉尤右兩人外ニ
ニ相應ノ者一兩名有之候間適宜撰定可然哉

但管内醫員ノ内醫學學校等ニテ學科卒業ノ者無之候
ニ付如斯相伺候

第二條

一 試驗ノ節ハ試驗人ハ雇料一日金壹圓書記取扱ノ者ハ
一日金七十五錢常費金ノ内ヨリ支給可然哉
但試驗人兩人書記壹人相雇候積ニ有之候

第三條

一 管内山野海岸ニ至テハ一村落ニ醫師一人モナキ所有
之偶開業致候者モ纒ニ古法ヲ學得候等ノ者ニ付現今
ノ處ニテハ試驗ヲ遂ケ候儀出來兼候間開業出願ノ者
モ試驗可出來見込ノ者又ハ本人志願ノ者ノニ試驗
免狀交付可然哉

(指令)

書面第一條第二條ハ伺ノ通

第三條 一管内ノ區畫ニヨリ試驗ヲ施スト否サルト有
之候テハ自然後進ノ誘導并取締ニモ關係可致候得共
現今實際ニ於テ不得已時態ニ付當分間屆候條猶精々
注意致シ一般擴及候様處置可致事

第三十四條

明治九年一月廿七日
賀縣ヨリ内務省へ伺

醫師試驗法本年御省乙第五號ヲ以御達有之候處當縣ノ儀ハ昨秋已ニ文部省へ伺濟ノ上越前福井ニ於テ公立醫學校ヲ設置シ豫科本科ノ學科ヲ以五十余名ノ生徒ヲ教授爲致置傍ヲ現ニ開業ノ者并ニ今後新々ニ開業ヲ願フ者ノ學術ヲ試驗シ漸次衛生ノ事項ヲ釐正致度目途ニ有之然ルニ管内一般ノ現狀學術未ク開ケス村落ノ醫員ニ至テハ西洋ノ藥品譯書ノ類目未ク之ヲ看ス耳未ク之ヲ聽カサルノ輩不尠シテ現今新々ニ開業ヲ請フ者モ亦往往其輩ノ子弟ニ付今急ニ六科ノ大意ヲ以其學術ヲ試ムルトハ及第開業ヲ得ル者ハ十ニ八九ヲ保シ難シ然ルト

ハ醫學所ノ生徒卒業ノ日尙遠ク開業ノ醫員自然僅少ニ相成僻邑山村等現ニ衛生ノ事項ニ差支ヲ生スヘシ故ニ今假ニ一般ノ適度ヲ計リ御規則六科ノ大意ニ基キ別紙假規則ノ通甚ク簡易ナル試驗科目并種痘試驗法トヲ設ケ當分一般ノ醫ヲ待シ之ニ合格ノ者ハ及第ト定メ本月ヨリ公立醫學所ニ於テ施行シ及第ノ者ハ其都度具狀仕候様致度相伺候也 別紙除之

(指令)

書面伺ノ趣該地ノ適度ニ應シ試驗ノ規則ヲ設クルハ勿論ニ候得共學科ノ條目ヲ減スルト開業ノ年期ヲ限ルトハ將來差支候條極メテ簡易ノ試驗ヲナシ其成績ニ就テ差等ヲ分テ或應答書ヲ添へ具狀可致事

醫術開業試驗手續

第三十五條

明治九年二月七日山口縣ヨリ内務省へ伺

醫師開業試験ノ儀ニ付御省本年乙第五號御達中從來開業ノ者ハ試験ヲ要セサル儀ニ有之候處當縣ノ如キハ舊藩中頗ル醫道改正ニ注意シ醫學所ヲ設立シ年齡ノ老壯ニ因テヤ、寬嚴ノ差ヒアリト雖開業ノ新舊ヲ論セス都テ試験ヲ遂ケ候故學術俱ニ拙劣ナル者ハ舊來開業ノ者ト雖直ニ廢業申付候法則ニテ置縣以來モ舊式ニ依遵仕來候抑舊來開業ノ者ヲ試験仕候ハ各人ノ營業ニ關涉シ民權ヲ束縛スルニ類似スト雖又眼ヲ至重人命保護ノ一方ニ轉スレハ眼一丁ナク醫手トシテ藥性病理ノ一斑ヲモ視知ル能ハサル妄誕凡拙ノ者ヲシテ變化無窮ノ疾病

ニ當ラシムルハ實ニ危殆恐ルヘキ事ニシテ一家ノ悲ハ敎家ノ哭ニ換ヘ難ク因テ已ムヲ得ス斷然施行仕候趣旨ニ有之爾來年月ヲ經ルニ從ヒ少壯ノ者ハ醫學本校ニ入り或ハ都下ニ遊學シ舊來ノ醫師モ一己ノ苦情ヲ忍ビ前條範醫ノ脫ス可ラサルヲ了シ各地結集醫書ヲ講究シ稍革面ノ姿ニ相見ヘ候折柄今般御達ノ趣ヲ遵行仕候テハ折角結構ノ規定ニ關シ幾分醫道退歩ノ景狀ヲ現シ候ハ必然ノ事ニ付當縣ノ儀ハ從來ノ行形ニ倚遵仕度相伺候也

(指令)

書面ノ趣難聞届候事

但本年一月前該縣應ニ於テ廢業申付置候者今後再開

醫術開業試験手續

業願出候節ハ其時々試験ヲ要シ候儀ト可相心得事

第三十六條

明治九年二月十九日佐賀縣ヨリ内務省へ伺

第一條

一 醫術開業ヲ請フ者法ノ如ク一科毎ニ試問シ事實既ニ明瞭ニ應對スレハ縱ヒ癩疾若クハ未成丁ノ者ト雖御免許可然哉

第二條

一 右開業免狀ヲ受ケ者廢業若クハ死去候節共都度免狀返納ハ勿論ニ可有之候得共若シ事故アリテ一時休業スル者ハ如何取計可然哉
右兩件相伺候也

(指令)

書面第一條伺ノ通試験上學術適當ノ者ニ候得ハ免狀授與可致候得共癩疾ノ者ハ其身體動作他人ノ請求ニ應シ治療ヲ爲スニ耐ルヤ否ヲ検査シ未成丁ノ者ハ殊ニ行狀如何ヲ勘察シテ具狀スヘシ

第二條病氣旅行其他已チ得サル事故アリテ一時休業スル者ハ其次第爲届出縣限リ聞置免狀返納ニ不及候事

第三十七條

明治九年二月廿日名東縣ヨリ内務省へ伺

醫師開業ノ者試験ノ儀本年乙第五號ヲ以御達相成候處當縣下内外醫師漢洋員數ヲ比較スルニ漢法ノ者十中八九ニ居リ試験科目中二三科ノ大意ヲ通熟候者僅少ニ有

醫術開業試験手續

之依テ當分ノ處御達通施行致兼候ニ付從前ノ振合ニ依
リ假免許渡置キ漸々以着手致度相伺候也

(指令)

申出ノ趣聞届候事

但先般相違候乙第五號ノ趣旨ハ今後新ニ開業スル者
ノ試験法ニノ專ラ後進ノ志向ヲ定メ候儀ニ付從來開
業ノ醫師ハ其儘差置地方ノ情態ニ隨ヒ試験ノ輕重難
易見計ヒ精々施行目途可相立候事

第三十八條

明治九年五月十三日
京都府内務省へ伺

致賀縣平民醫業北島剛三儀當府下ニ於テ醫術營業致度
旨別紙ノ通願出候處當管下ニ於テハ新ニ營業候者ハ試

驗許可ノ詮議ニ可及候得共同人儀ハ本縣開業免狀所持
罷在候ニ付試験ニ不及醫務條件發行以前從來營業致居
候舊醫師ト看做シ當府ニ於テ營業印鑑相渡可置哉又ハ
試験ニ及ヘシ哉相伺候也 別紙 除之

(指令)

書面伺ノ趣從來開業ノ醫師ト雖他管ヨリ轉住シ當省免
狀所持無之者ハ新規開業ト見做シ試験致候儀ト可相必
得事

第三十九條

明治九年五月十七日
磨縣ヨリ内務省へ伺

第一條

一 醫師履歷ノ儀兼テ御達ノ旨趣ニ基キ別途進達及候處

醫術開業試験手續

其他針術灸點牛馬醫等ハ從來各自勝手ニ營業イタセ
シ慣習ナルヲ以山間僻邑ニ至テハ自ラ醫員タルヲ覺
ラサル者往々有之右等ノ如キモ醫業ノ一部分タルヲ
以同様履歷取纏メ御届ニ及ヒ可然哉又ハ縣限リ之ヲ
糺シ鑑札附與可然哉

第二條

一右同斷新々ニ開業セント欲スルモノハ産科口中科ノ
試驗科目ニ照準シ各部分ノ解剖生理ノ大意及手術ヲ
檢シ不都合無之分ハ差許可然哉
但牛馬醫ハ當分手術ノニ檢査ノ見込ニ候事
右兩條相伺候也

(指令)

第一條

一針術灸點ノ儀ハ元來一種ノ小技ニ屬シ候モノニテ試
驗科目ニ照準シ難ク依テ新舊共試驗ニ不及其縣限リ
相應ノ取締相立履歷取纏メ可差出事

第二條

一牛馬醫ノ儀ハ醫科ノ一部ニ付學業獎勵ノ目的ヲ以方
法取調更ニ可伺出事

第四十條

明治九年六月十九日千
葉縣ヨリ内務省ヘ伺

醫學ノ急要ナル今更ニ陳述候迄ニ無之候處當縣下醫員
ノ如キハ概スルニ學術講習ノ順序ニ無之十ニ八九ハ漢
法ニシテ生理病理ノ學科ヲモ履マズ妄リニ司命ノ要職

醫術開業試驗手續

ニ勝リ甚以危殆ノ至ニ有之向後開業ノ者ハ夫々試験ノ
 程規モ相立候得共從前開業ノ向ハ今ヨリ都府ニ留學ス
 ル年期モ無之且其業ヲ停メ新ニ入學候機ニテハ生計ニ
 差支候義モ不少其カ爲メ多少志ヲ懷ク輩モ不得止默々
 舊習ヲ株守シ其學術ヲ研磨スルコ由ナク加之銘々子弟
 ナシテ都府ノ名家ニ就テ學ハシムルノ備モ之レナキヨ
 リ家庭ニ在テ自家ノ學術ヲ傳ル迄ニテ開業ノ日ニ方リ
 試験ニ應スルコトモ能ハス殊ニ衛生上ニ第一緊要ナル醫
 學ニシテ斯ク苟且鹵莽ニ流レ候テハ人民保護ノ道モ不
 相立苦慮ノ至ニ付先般縣下千葉町ニ設置スルトコロノ
 共立病院ヲ新造シ醫學教場ヲ附屬シ管内有志ノ者ヲ募
 リ專ラ醫學ヲ傳授シ且各大區ニ醫學講習所ヲ設ケ本院

ノ醫員ヲ派遣シ現今醫學開業ノ者ヲ懲懲シ物理學化學
 其他解剖生理病理藥劑ノ諸學内外科ノ要旨ヲ傳ヘ各自
 成業ノ日ハ試験ヲ經テ成規ノ通開業免狀ヲ交付シ管内
 生靈ノ健康安寧ヲ保全候様仕度然ルニ右醫學教場并講
 習所ノ經費支出ニ至テ頗フル困難ノ事情有之縣稅ノ儀
 モ道路橋梁學校其他ノ費途ニ可仕拂筈ニテ之ヲ概算ス
 ルニ多分ノ殘額モ無之旁病院新築費金貳千圓餘ヲ辨ス
 ルノ外該費ニ難差向去迎當今民費夥多ノ際更ニ一般賦
 課ノ儀モ取計カタク故ニ現下開業ノ醫員ニシテ其講授
 ナ受ヘキ者ハ勿論講授ヲ要セサル者モ醫教擴張ニ付テ
 ハ之ヲ扶助セサルノ理無之依テ管内醫術開業ノ者ヨリ
 月々金五十錢ヨリ多カラズ金三十錢ヨリ少ナカラサル

金員徵收ノ法ヲ設ケ右醫學教場并講習所ノ經費ニ相充
テ申度一體醫學教場等取立ニ付テハ本年乙第四十三號
御達ニ照依シ教則等ヲ具シ更ニ病院設立伺書取調可差
出ノ處前舉經費支出ノ方法治定不致テハ教則并講習規
則等取調方ニモ差支候條先以別紙醫學教場并講習所設
置手續ノ通經費課出ノ儀御許可ノ上教則等取調上申致
度相伺候也

(指令)

書面經費賦課ノ儀開屆候事

第四十一條

明治九年六月二十八日
愛媛縣ヨリ内務省ヘ伺

本年御省乙第五號開業醫師試驗法御達中従前開業ノモ

ノハ試験ヲ要セスト有之候處管下ノ内婦女子ニテ既ニ
先年ヨリ醫術開業致居候者有之右ハ従前開業ノ者ニ付
其儘差置可申哉又ハ婦人ノ儀ニ付概略試験ヲ遂ク相當
習熟ノ者ニ候ハ、醫業差許不苦哉相伺候也

(指令)

書面ノ趣試験ニ不及事

第四十二條

明治九年七月一日山
形縣ヨリ内務省ヘ伺

御省本年乙第五號ヲ以テ醫師試驗法御達有之候ニ依リ
本月十三日附ヲ以テ右試験法施行可仕夫々若手候處従
來開業醫師ノ内府縣ニ奉職候歟或ハ遊學ニ出候カニテ

醫術開業試験手續

一時休業候へば或ハ辭職或ハ歸郷ノ後舊業ニ復シ度旨申出候向有之右ハ官ヨリ廢業申付候者ニモ無之候ハ從來開業ノ續キテ以テ試験ニ不及其儘營業爲致不苦哉又ハ新規ノ者ト看做シ試験可致哉相伺候也

(指令)

書面ノ趣一時休業ノ者ハ從來開業ノ續キテ以テ試験ニ及ハス營業爲致不苦候事

第四十三條

明治九年七月三十一日
三 濬縣ヨリ内務省へ伺

醫術新規開業願出候者ハ試験許可ノ詮議ニ可及ハ勿論從前開業ノ醫師ト雖モ他管ヨリ轉住シ免狀所持無之者ハ新規開業ト看做シ試験致候儀ハ御省日誌第三拾貳號

京都府伺ノ指令ニテ判然クソレモ改正種痘規則第一條但書中醫術ヲ以テ官省府縣へ服事スル者ハ此限ニアラス云々ト有之候ニ付テハ一般醫術新規開業ノ者ト雖モ既ニ醫術ヲ以テ官省府縣ニ奉務候者ハ右權衡ニ依リ試験ニ要セス從前開業ノ者ト看做シ當縣ニ於テ開業免狀相渡置可然哉相伺候也

(指令)

書面伺ノ通

第四十四條

明治九年七月廿二日
堺縣ヨリ内務省へ伺

從來開業ノ醫師ト雖モ他管ヨリ轉住シ御省ノ免狀所持無之者ハ新規開業ト看做シ試験致候儀ト可相心得旨御

醫術開業試験手續

省日誌本年五月廿七日京都府へ御指令有之候處他管
於テ從來開業ノ醫師本縣下ニ出張所ヲ設ケ施療致候者
ノ如キモ亦新規開業ト看做シ試験可致哉相伺候也

(指令)

書面伺ノ趣其縣ニ於テ新規開業醫試験ノ儀發令前他管
ヨリ出張所相設候分ハ試験ヲ要セス其發令後ニ係ルモ
ノハ新規開業ト看做シ試験可致儀ト可相心得事

第四十五條

明治九年八月三日鳥
取縣ヨリ内務省へ伺

第一條

一 藥舖開業ノ者從來左ノ科目ヲ以テ試験ヲ遂ケ差許來
候處衛生事務追々御達有之ニ付右科目一層精撰可然

存候得共實際未ク此ニ至ラス依テ尙ホ從來ノ通取計
可然哉

甲 加減乘除普通ノ算術

乙 藥品善惡其他產地並品類ノ暗射

第二條

一 右ノ者鑑札ノ儀ハ醫師ニ准シ從前ノ分ハ當分縣限相
渡新規ノ分ハ上申免狀申受可然哉

第三條

一 醫師ニ於テ從來藥舖ヲ兼ヌル者アリ右ハ其業事專一
ナラス自然取扱ニ疎漏ヲ免カレヌ不都合ト存候ニ付
從前向後共差止可然哉

第四條

一右差位可然候得ハ以後藥舖開業出願スルモ紫ヨリ醫業ノ儀ニ付別段試験ニ及ハス可然哉

第五條

一右醫師漢法ニシテ藥舖開業スルキハ洋藥種取扱ハ聞届不相成儀ト存候得共翻譯書等ニテ取扱了知スル者ハ別ニ就師ノ修業無之トモ試験ノ上差許可然哉

第六條

一従前種痘規則中證書雛形ニ種痘濟ノ右傍ニ朱印ニテ初度再度云々ト有之候處先般甲第八號御改正規則ニハ記載無之候得共證書ハ元來幾度接種ノ濟否等ヲ證スル者ト存候得ハ矢張従前ノ通取計可然哉

第七條

一醫師ヨリ死亡届半ケ年ツ、取經云々御達有之右ハ其以來ノ分ヨリ届出サセ共以前本年一月ノ分ハ不差出可然哉

第八條

一醫師ノ施治スルヤ間々瀰漏ニ失スル者甚ナカラサル由追々取締ノ御趣向可有之候得共差向醫師ヨリ死亡届ニ左ノ書面添届爲致相當セサル分ハ教授等ヲ加ヘ取締旁漸次進歩ノ一端ヲ預定可然哉

症候 經過 處分

第九條

一元來業ヲ漢醫ニ修メ師ニ就フナクシテ僅ニ一二ノ翻譯書ヲ讀ミ得漢洋折衷ト稱シ舶來藥ヲ取扱フ如キハ

試験ヲ遂ルカ或ハ純粹ノ漢醫トシテ鑑札ヲ附與スヘキ旨先般御省衛生局巡回心得書傳達アリ右ハ普通緩和ノ洋藥ト雖モ渾テ試験ノ適當セル分丈ケテ許スヘキ儀ニ候哉又ハ之ニ依リ洋藥ハ總テ取扱ヲ許スヘキ儀ニ候哉又右漢醫ノ内履歴書上内科外科ノ一科ヲ修ムルモノハ其鑑札ヲ附與スヘク儀ニ可有之處一二ノ書籍ニ就テ漢法中他ノ科ヲ施行スル者山間僻地ハ殊ニ尠ナカラサル由是等モ更ニ試験ノ上ニ無之テハ許可スヘカラサル儀ニ候哉

第十條

一右洋藥ノ取扱ヲ許スルハ鑑札ノ名義ハ矢張漢洋折衷ト致シ可然哉

第十一條

一洋法醫ニシテ漢藥取扱ハ自由ニ任シ可然哉

第十二條

一翻譯書ニ就キ洋法施行スルモノ矢張前條手續ヲ以テ試験ヲナシ其鑑札ヲ付與可然哉

第十三條

一右試験ノ無キモノハ一般施行ヲ禁シ可然哉
右件々相伺候也

(指令)

書面伺ノ趣左ノ通可相心得事

第一條 伺ノ通

第二條 藥舖新規開業ノ分タリ共追テ相違候迄其期限

醫術開業試験手續

鑑札授與可取計事

第三條 伺ノ通

第四條第五條 第三條ノ通ニ付兼業不相成儀ト可相心得事

第六條 伺ノ通

第七條 本年一月ヨリノ分可差出事

第八條 伺ノ通

但右ノ爲メ死亡届脱漏不致様注意可取計事

第九條 以下従前開業醫師處分ノ儀ハ豫テ相達候通試験ヲ不要其儘差許置候趣意ニ候得共方今漢洋折衷家ト唱ヘ候モノ妄リニ劇藥ヲ取扱危殆ノ至ニ付縣下ノ都合見計ヒ純粹ノ漢法ニ復セシムルカ或ハ強テ洋法

チ用度志願ノ者ハ新規開業ト看做シ乙第五號違科目ニ照準試験可遂段巡回吏員ヲシテ協議セシメ候儀ニ候條此旨相心得便宜處分可取計事

第四十六條

明治九年九月一日山口縣ヨリ内務省ヘ伺

縣下華浦醫院長島田圭三福田正ニヨリ別書差出候ニ付密案候處當縣ノ儀ハ舊藩中既ニ醫術擴張ノ道ヲ盡シ試験ノ方法等相設逐年進歩ノ實効相顯候處現今縣下ノ者他府縣ニ留學シ其府縣ノ試験ヲ經御省ノ免許狀ヲ得歸縣開業候者有之右ハ御省ニ於テ御許可相成候上ハ間然可致筋無之候得共獨リ奈何セシ醫術進歩ノ度未タ全國一般ノ平均ヲ得サルニ依リ御省乙第五號醫師試験法御

確定アリト雖ハ實際試験ノ方法ハ各縣寬嚴ノ差無キ能
ハス甲縣ニテ試験落第ノ者モ乙縣ニテハ登科ノ僥倖ヲ
得ルモノ間々有之隨テ少年急進ノ徒或ハ甲縣ノ試験ヲ
難スレハ乙縣ニ走リ僥倖ヲ希フ者無キニ非ス別書醫院
長申立ノ旨趣實際難默止候ニ付向後當縣ニテ開業ノ者
ハ必ス當縣ノ試験ヲ經候上ニテ御省へ願出免許狀御下
渡相成候様仕度別書相添相伺候也 別書
除之

(指令)

書面伺ノ趣難聞届候事

但島田圭三福田正二兩名建白書ノ如ク當省免狀所持
ノ者ト雖ハ醫學社へ入社共學力ノ深淺ニ應シ先進ニ
就テ研學或ハ後進ヲ教導セシメ候等ノ儀ハ適宜取計

不苦候事

第四十七條

明治九年十月七日神奈川縣ヨリ内務省へ伺

海陸軍文部三省等ニ於テ醫術ヲ以テ奉職ノ者免職後醫
術開業セント欲スル時ハ既ニ該省ニ於テ試験済ノ上奉
職スル儀ト存候間右拜命辭令書ヲ憑據トシ改テ試験ヲ
要セム履歴書爲差出其段具狀候ハ、免狀御交付可相成
哉ノ段五月廿一日相伺候處書面伺ノ通但御省ヨリ故ヲ
ニ免狀御下付不相成旨御指揮ニ付試験ヲ要セス無免狀
ニテ開業被差許儀ニ候ハ、右等ノ者新ニ當縣へ罷越開
業出願ノ節ハ從來開業ノ醫師同様當縣鑑札授與可致哉
再應相伺候也

(指令)

書面伺之通

第四十八條

明治九年十二月二十三日
神奈川縣ヨリ内務省へ伺

醫術ノ儀追々御擴張相成向後開業ノ者ハ夫々試験ノ定規モ相立候得トモ從來開業ノ醫師ニ至テハ多クハ舊習ヲ墨守シ學術ヲ研磨スルノ順序モ無之之ヲシテ司命ノ職ニ居ラシムルハ危殆ノ儀ト存候間今般本縣下各大區へ醫學講習所設立ノ見込ニ有之畢竟講習所ナルモノハ各自ノ共立ニ出ルモノヨシテ各自ノ技術ヲ研磨シ進歩ヲ謀ル所ナルヲ以テ其維持保護モ亦各自ニ可致ハ論ヲ待タル儀ニ付彌講習所設立ノ上ハ月々醫師ヨリ若干金

員徴収ノ方法ヲモ可相立見込ニ有之候得共目今從來開業ノ醫師其他へ本縣鑑札下付ノ際ニ付テハ差向キ左ノ割合ヲ以テ鑑札料ヲ科シ右講習所設立費用ノ補助ニ充テ可然哉相伺候也

第一條

一從來開業ノ醫師漢洋ヲ本縣鑑札下渡候ニ付鑑札料トシテ金五拾錢取立候事

第二條

一前條鑑札下渡後轉居或紛失等ニテ替替願出候節モ書替料トシテ金貳拾五錢取立候事

第三條

一從來開業ノ産婆針灸治瘰癧骨揉療治口中入齒等鑑札

醫術開業試験手續

ノ儀ハ營業年期ヲ定メ滿一年ヲ一季トシ滿期ニ至リ
尙ホ續テ營業ノ者ハ一季毎ニ鑑札書替下渡其時々鑑
札料トシテ金貳拾錢取立候事

第四條

一前條產婆其外鑑札轉居或紛失等ニテ書替願出候節モ
書替料トシテ金拾錢取立候事

(指令)

第一條第二條 伺ノ通

第三條 鍼灸治揉療治營業ノ者ハ伺ノ通產婆整骨口

中入齒等營業ノ者ハ年期ヲ限ラズ鑑札授與可致事

第四條 伺ノ通

第四十九條

明治十年五月二十八日
愛知縣ヨリ内務省ヘ伺

從來開業ノ醫師ニテ他管ヨリ轉住シ營業出願スル者御
省ノ免狀所持無之上ハ總テ新規開業ト看做候儀ハ先般
伺濟取扱來候處轉住ニ非スシテ日並ヲ定メ出張營業願
出ツル者ノ如キハ往診ノ麻ニ看做シ御省ノ免狀無之ト
モ試験ヲ要セス聞届可然哉相伺候也

(指令)

書面伺ノ通

第五十條

明治十年五月十七日
都府ヨリ内務省ヘ伺

明治九年十一月醫第九拾號ヲ以テ行狀不正ノ醫師處分
方伺出候處營業可差留見込有之者ハ其次第ヲ詳記シ可

醫術開業試験手續

伺出旨御指令有之右ハ舊醫師岡田其齋ナル者病氣責付
ノ懲役入診察ノ上別紙天印容體書ヲ授ケ收賻ノ儀願出
候ニ付尙醫員差向ケ診斷爲致候處地印ノ通りコテ全ク
依頼ヲ受ケ偽リ容體書相認候旨コテ人印ノ通處斷相成
不正ノ所業ニ付廢業爲致度相伺候也 別紙
除之

(指令)

書面伺ノ趣ハ醫術ノ拙劣ナルニ因テ誤診スルニ非ス又
其治術ヲ以テ人ヲ傷害スルニ非ス既ニ犯罪ノ處斷ヲ受
クル上ハ更ニ該業ヲ止ムルニ不及儀ト可相心得事

第五十一條

明治十年六月十六日新
潟縣ヨリ内務省ヘ伺

明治九年御省乙第五號ヲ以テ將來開業醫試驗ノ儀御達

ニ付テハ追々及御届置候通當縣ニ於テハ速ニ舉行シ他
管内ヨリ移住スル者ハ從前開業ノ者 御省ノ同業許ト雖
モ新クニ開業スル者同様取扱來候處醫術ヲ以テ官ニ奉
職ノ者官暇或ハ解職ノ後開業スルモハ履歷書爲差出試
驗ニ及ハサル旨九年六月九日東京府伺書ヘ指示有之趣
本年一月御省日誌第三號同府伺書ニ有之就テハ醫業習
熟ノ履歷判然タルモノニテ公立病院ノ醫員タリシモノ
解職ノ後開業スル時ハ醫術ヲ以テ官ニ奉職スル者ノ權
衡ニヨリ履歷書爲差出候マテニテ試驗ヲ用ヒス開業差
許シ從前開業醫 試驗法舉行セノ部ニ相加ヘ可然哉相伺
候也

(指令)

醫術開業試驗手續

書面伺ノ通

但治療ヲ專任セサル助手并藥局生ハ此限ニ非
儀ト可相心得事

第五十二條

明治十年一月十二日東京府ヨリ内務省へ伺

第一段

一 醫術ヲ以テ官ニ奉職ノ者官暇或ハ解職ノ後開業候節
ハ履歷書差出サセ試験ニ及ハサル旨去九年六月九日
伺濟ニ付テハ去ル八年二月中醫師試験方文部省ヨリ
達ノ節當府下ニ於テ現ニ開業ノ者ニ無之トモ其後醫
術ヲ以テ官ニ奉職セシモノナレハ官暇或ハ解職ノ後
開業願出候節試験ニ及ハサル筋ニ候哉

第二段

一旦又去ル八年二月以前ヨリ醫術ニアラスシテ官ニ奉
職セシモノハ既ニ醫業ヲ廢棄セシモノナレハ更ニ開
業ノ節ハ成規ノ通試験ヲ遂ケ可然哉相伺候也

(指令)

第一段 伺ノ通

第二段 既ニ廢業届差出タルモノニ非レハ試験ニ不及

事

第五十三條

明治十年三月廿一日三重縣ヨリ内務省へ伺

明治九年御省乙第五號御達ニ據リ管内醫師學術ノ現狀
ヲ量リ兼テ御届申上候通本年一月ヨリ試験法施行候處

醫術開業試験手續